同年十月、甲斐守源光直、山形城主最上義光ノ武運長久ヲ禱ランガ爲メ、立石寺中堂ニ鰐口一箇ヲ寄進ス。

〔鰐口銘〕

奉爲寄進鑄之鰐口、一箇、羽前最上安曾郡成生庄、寶珠山立石寺中堂、藥師瑠璃光如來御寶前、右旨趣者當國守護、府中山形源義光朝臣。爲御壽命長遠、息災堅固、文武久興、累安穩也、願主山形甲斐守源光直敬白

于時慶長十三年戊申十月二十六日。

同十四年己酉六月二十四日、氏家光氏ノ爲ニ石槃一基ヲ最上家信、繪馬一枚ヲ、天童愛宕社ニ納ル。（繪馬年代未詳）

〔天童愛宕神社藏〕

奉納　石燈籠。

愛宕御寶前。

慶長拾四年己酉六月廿四日。

光氏　祈念成就之所　□□□尉
白川□□□
□□治部少輔

〔繪馬銘〕

奉納馬形一疋、爲諸願成就、

家信、

同十五年庚戌四月、最上義光、將士騎馬ヲ天童原ニ撿閲セントス、將士相競テ之ニ赴ク、義光暴カニ之ヲ停ム。

〔最上軍記〕

慶長十二年、（物語十五年ニ作ル）正月十五日、被仰出しハ、四月於天童原馬揃可有間、直參ハ不及申、又家中之者共迄、日來馬を嗜候者ハ、不殘可罷出候、乍去本城豐前守を始、境目之城主、并鶴ヶ岡に百五拾騎、亀ヶ崎に百騎、寒河江に三十騎、此在番衆貳百八十騎ハ、罷出候儀可爲無用、其外罷出候者ハ、衆而山形へ參、御帳に可付と御觸有之ける程に、御旗本ハ不及申、家中之者共迄、爰を晴と出立て、何れも子の刻に罷出、寅の刻より天童原に相詰々り、此儀衆而ゟ御催し成々る間、聞傳に近國ゟ集り、見物幾千万と云數を志らに、義光公も卯ノ上刻に御出被成、御供にハ近習衆小姓衆、并日續番之内ゟ、器量之若者三十騎被指出、一樣に唐織之羽織を御着せ被成、被召具、御定の如く城持ゟ乘始せんと致々る所に、今日者延引可有之迚、俄に御歸城有々り云々。

同十六年辛亥正月、立石寺塔中桂薗坊、乘連坊、高櫓村内ノ土田ヲ、安食大和守ニ賣却ス。

〔立石寺文書〕

定。

立石寺澤之坊寄進分事。

右永代坊地高楡屋家、屋原貳百五拾束苅代物五貫四百文賣渡處實立也、或者於子々孫々、不可

有二違乱一者也、依爲二後日一之狀如件。
慶長拾六年辛亥正月吉日。
賣主、
桂蘭坊。
乘連坊。
指南、
山寺源兵衛。（黒印）
此物成四俵、
伏谷與そ左衛門。（黒印）
筆者、
眞如坊。
買主山形。
安食大和守殿。
參。
後水尾天皇、同年三月、最上義光、左近衛權少將ニ任シ、從四位上ニ叙ス。
同年五月、最上義光、中野村内高百石ヲ山形常念寺ニ寄進ス、寺ハ故修理大夫義康ノ牌所也。
〔常念寺文書〕
乍少中野之内、知行百石之所進之候、地之有所伊豫備後ニ御尋尤候、目出度候、々々々々。

慶長十六年五月廿二日、義光。
常念寺。
參。
同年十月、東根日野縫野助、千手觀音堂ニ繪馬ヲ奉納ス。
〔吉祥院藏〕
慶長十六年拾月十七日
東根　日野縫野助。
同十九年甲寅正月、最上義光病テ山形城ニ卒ス、年六十九、光禪寺殿玉山白公大居士ト法諡ス、寒河江肥前、山家河内、長岡但馬等之ニ殉ス、男家親續ク、義光六男一女アリ、長男義康前ニ殺サル、次家親次、義親清水氏ヲ續ク、次義忠山野邊ト稱ス、次義直上山氏ヲ次ク、早ク沒ス、次光隆大山氏ト稱ス、女關白秀次ニ侍シ、前ニ戮セラル。
〔諸城興廢考〕
高原。元植野村。　山家河内守楯跡。
以河内守、慶長十九年二月六日、義光逝去之折、於光禪寺殉死、寒河江肥前守、寒河江十兵衛尉、
長岡但馬守一同。
〔駿河日記〕
正月廿五日、（大御所在小田原）今日最上駿河守飛脚、自二江戸一參着、申云、十八日最上出羽守卒去之由、佐渡守

(本多)言上、依之子息駿河守家親急下國、仕置可申付之旨被仰出云々。

〔最上系圖〕

義光。
- 義康。修理大夫
- 家親。駿河守一左馬助　太郎四郎　從四位下侍從
- 氏滿。清水大藏大輔　義親
- 光茂。山野邊右衛門大夫
- 光廣。上山兵部大輔
- 光隆。大山治部大輔
- 女子。
- 家信。

同年九月、最上家親、豊臣秀頼兵ヲ大坂ニ擧ルト聞キ、兵三千人ヲ率テ山形ヲ發ス、弟楯岡甲斐守義直ヲシテ留守セシム。

〔奥羽永慶軍記〕

江戸ヨリ御陣觸有リ、最上駿河守モ三千ノ士卒ヲ催シ、九月十五日山形ヲ出陣、江府ニソ上リケル、國ノ守護ニハ、舍弟楯岡甲斐守義直ヲソ殘サレケル。

同年十月、最上家親、江戸城留守ヲ命セラル、家親駿河ニ詣リ、前將軍德川家康ニ謁シ、襲封ヲ謝シ、且ツ亡父義光ノ遺物ヲ献ス。

〔駿河日記〕

十月九日、最上駿河守駿河參府、則今日御目見、父出羽守義光、正月十八日死去、繼目御禮、銀五百枚、綿五百把、蠟燭千挺、御馬、鬣毛御太刀、正恒献之、出羽守遺物黄金百枚、脇差、來國俊献之、本多上野介披露之、仰曰、大坂御出馬、將軍家江戸可爲御留守之由、被仰渡、赴江戸。

〔最上家傳〕

今度留守之儀申付候、鳥居左京亮、米津勘兵衛、嶋田兵四郎令相談、諸事入念可申付事肝要候也。

慶長十九年十月廿三日、

最上駿河守殿。

元和元年乙卯四月、豊臣秀頼、再ヒ兵ヲ大坂ニ擧ク、最上家親、復タ江戸城留守ヲ命セラル。

〔武德編年集成〕

同年四月、將軍秀忠神奈川ニ次ス、江城ニハ大猷公國君、蒲生下野守忠郷、最上駿河守家親以下留守。

同三年丁巳三月、最上家親暴ニ卒ス、年三十六、光禪寺ニ葬ル、盛光院傑岩宗勢大居士ト法諡ス。

〔光明寺系圖〕

家親。駿河守、侍從、家康公之字拜領、元和二丁巳三月六日、三十六才卒。

同年五月、家親ノ男源五郎家信家督ス、歳甫テ十二、後ニ義俊ト改ム、幕府諸家老ニ命シ、萬事故義光ノ法度ニ遵ヒ、家信ヲ補佐セシム。

〔最上家傳〕

一同年五月三日、愚子源五郎家信、十二歳家督被仰付、繼目之御禮申上候、(中略)如先規出羽守駿河守仕置、不相替可申付之旨、品々御書出頂戴、山形へ入部仕候。

〔中興武家盛衰記〕

條々

一今度駿河守跡式、源五郎ニ申付條、諸事出羽守任仕置可致沙汰事。

一家中縁組之儀、二千石以上ハ可得上意、二千石以下ハ不及沙汰、但雖爲小臣依其人体可令言上事。

一公事裁許之儀、如先規是非を聞屆可申付、若相談之上不及分別儀ハ可言上事。

一出羽守駿河守申付候諸奉行諸役人等を、私として改替すへからす、自然欠加者可得上意事。

一出羽守駿河守勘當仕候者、到領内自最前不申分輩、當代私に許容すへからさる事。

一知行加增、并新參之者召抱候儀、源五郎爲幼少之間、得上意可隨御下知事。

一企徒黨申合すへからさる事。

右之條々、急度可相守之者也。

元和三年五月十日、　土井大炊頭利勝。
板倉伊賀守勝重。
本多上野介正純。
酒井雅樂頭忠世。
安藤對馬守重信。

最上源五郎殿。
家老中へ。

同年七月、專稱寺自順乘覽法師示寂ス、年四十一、妻ハ藏增賴俊ノ女ナリ。

〔專稱寺世代記〕

六代、元和三丁巳七月五日。

自順乘覽法師、四十一歳。

能州寺井ヨリ、藏增向願寺ニ住職セシ僧乘慶後ニ乘慶師ノ養子トナル、飛檜新官任僧都、慶長十九甲寅春、義光公一鐘ヲ寄附セラル、内縁ハ藏增安房守賴俊息女義光公姪ヲ院主トス。

同四年戊午五月、大僧正天海、立石寺法度ヲ定メ、之ヲ領主最上義俊ニ送致ス。

〔立石寺文書〕

出羽國最上郡寶珠山
立石寺法度之事。

一爲末寺、不可違背本寺之命、尤一山之僧徒、可隨學頭之下知事。

一諸法事可勤、清僧付持戒之僧衆之上、不可居妻帶之事。
一知行之儀者、隨法事之役、可有其高下之事。
一自今以後空坊之儀、可爲學頭之計之事。
一山中不可置他宗之事。
一寺内之山林猥不可切取、但住山之人者、受學頭之内儀、可辨所用之事。
一一山之僧俗企公事、不可致一烈之事。
右堅可相守此旨者也、仍如件。

元和四年戊午
五月吉日　　山門探題大僧正天海。花押
最上源五郎。花押

同六年庚申三月、立石寺所領田帳ヲ調成ス。

〔立石寺文書〕

立石寺一山中田帳。

一學頭樣之事、山ノ法主と申、大師之まへ佛と仰き、衆中上下共に師匠ニ奉賴、そう敬申事也。
一學頭上下之ゐちやり、年中御役事。
一元日中堂儺ニ立や、水上ノゐちやり、口願學頭、唄師下ノ阿闍梨、四ヶ法用ハ衆中役。
一三日ノ大師講ノ論議ハ、學頭ノ役、衆中ハ書付論義、五問壹答、三問一答、月次ハ一問一答也。
一十四日曼荼羅供、上ノ阿闍梨、報恩講論議、學頭ノ役、此二ヶハ此中斷絶候也。
一十七日山王講論議、學頭ノ御役、毎月衆中書付。
一三月廿五日經會ニ大行道之時、講師學頭、讀師少勸進、咒願唄上下ノ阿闍梨、法用衆中。
一四月日吉祭禮神供、上阿闍梨ノ役。
一霜月廿四日大師講、十講論議學頭ノ役、但十部忌。
一毎年八講論議、學頭ノ役、御□□□之事（最花物）
八講錢四分一學頭へ爲參候、先達錢ハ先返之次第、結衆錢ハ結衆之次第ニ、學頭へも爲參候。
一山中ノ庵室衆ハ、新發意ノ一人も□□□□ハ、上ノ阿闍梨ノ御日記ヲ以、護摩たらせ申候、乍去御布施ハ無之候、但許可御示之時ハ、布施爲參候、灌頂ハ何國ニても仕申候、但當寺之御法流ハ、蓮花院ニて候。
一奥院輪番衆之事、始而籠り之ひちりハ、上ノ阿闍梨江御意ヲ請し、りんばん申候、但きゑん分年貫等之事ハ、ひちり衆之談合を以とり申候、ひちりハ七八人も御座候。
一衆張ハ學頭職ニハ付不申候、故ハ院主別當威德院と申、惣衆中ヲ爲三分、前々ノ坊跡仰付次第ニ躰分ニ罷出候、御兒樣ヲ始と申、三月四月之神事ニも出仕申候、分而此中ハぞくゑよニ罷成候へ共、たりつぎ殿江出仕申候。
一御祈念之事ハ、學頭ノ御役ニハ定ハ無之候、旦那樣より被賴入候へハ被成候、其外被仰付、次第ニて候、但御最花物ハ、衆中二人分學頭へ爲參候、惣而學頭者顯密ノ執行計ニて候、別而六ヶ敷事も無之候。

一山ニ堪忍申者ハ、旦那々ノ寄進分計ニて候、但ふもとノ役田ヲかゝへ持申候者ハ、例講へ不罷出候間御役申候。

一知行ハ惣別御國より被相付候間、御祈念第一ニ候。

前々ノとくヲ書付指上候、但何分ニも御意次第ニ候。

一如法堂ノ分事、十二月之間、ひちり二人ふちりゝ、鹽噌共ニ上申候。

一法納田ト申ハ、ひちり衆十二月之間、如法經書申候て、經堂へ納申候間、十二ニ分申候、ひちり衆とり申候。

一油田ハ十二月之間、油あけ申候。

一香田ハ十二月之間、かうをあけ申候。

一らうかてんハ如法堂らうか、まゝざうゑなきときハ法納おこあひ申候、むらしよりきゝんの御てん候、但ワゝてんやり字ニて候。

一ゐゝゝ堂僧之事、一人まひニ本田千束ゝり、ワゝより田四百五十ゝりつゝ、是者おもてのゝゆと申候やくの事。

一日吉之大まつり一代ニ一度、米拾俵本錢七百文やと入申候。

一十五ゝう月まハり。一さん王かう月まハり。

一大師ゝう月まハり。一三月廿五日ちごまい之事。

一七月ゝたゝん事。一正月十五日よりもちとう事。

一八月十五日よりおもとう事。

一正月六日山王ゝゆゝやうゝゆのとうの事。

一せつしゆハ長クおく候間、やゝ申候。

一あゝゝとう雪一間つゝおろし、十五人之ゝゆと、毎月ゐゝた三まひ之事、惣而何事も此ちぎやうニてやく申候。

一中堂役之事、一人まひ三百ゝりつゝ。

一くやう法てん之事、正月堂ニだんぐつゝ申候、同ゆき一間おろし申候。

一十二月之間かうもる事、六人して五日ゝん。

一正月堂あふらてん之事。

一ぶつちやうてん事、十二ハおく候。

一せつぶうてん事。一せん法もうせん事。

一四ヶ法用てん之事。

一山王三まつり、とりの日まつり、五月五日まつり、九月九日のまつり、一人まひ四百ゝり宛。

一きやうゑてん之事、一人まひ三百ゝりつゝ。

一三月廿五日山王へ、さけもちあけ申候。

一まひのきやう事。一きやうゑのよりあひ事。

一ぢんゝい事。一らんぢやう之事。

一あこや之事。一かくやゆきとしまハり。

一大こゝりつきとしまハり。

一山王三こくてん之事、一人まひ三百ゟりつゝ。
一ミこく之事ハ、十二月之間上申候、すこしたり不申候、上中下旬之間、壹月付て三斗つゝ、あゟと
　こゆき一間つゝ。
一まつりたいこふゑかく人之事ハ、廿五日ノゟく人あり。
一ゑやゟ紙もんハ、山王ミやニて候事、二月十五日法花經よミ申候、ふせまひ御座候。
一法花八かうハ、山王御前ニていゑし申候。
一大夫ミこハ、まつりとニみゟくら申候。
一大師とう、正月十三日法花壹部よミ申候、ふせふるまひ候。
一十四日まんたらく、十二月ハおく候。
一かうをんゟう、これも十二月ハおく候。
　惣而此二やうハ斷絶候也。
一學頭てんハ論議の御やく、ゐちやりてんハみつきうの御やく、ゟくとうてん上あちやり、下あ
　ちやり合三人、やく學頭ニ付申候。
一少勸進ハ筆とりのやく、さた□□□□をひゟうのさし張ゑゟ巻のやく、山ゟゑかのごまてん
　ハ、こまの御やくなり。

○

知行帳、　立石寺學頭坊。
あふら田、　百姓覺。

一三百地、本代、九十文、　武田九郎。
　七百地、本代。
一仁百拾文、とかし大覺。一人前より本錢五十仁文。きゐりつゝ出也。此四人して作る也。
　同　ふんご。
　增子　外記。
　武田ゑんもうらう。
一百地、本錢卅文。手作分、一井坊手作、癸年とゟし大覺作。
　學頭分知行。
赤石、百五拾苅、此米壹俵九升五合、藤　内。
同所、百苅、此米壹俵三升給分、惣兵衛。
同所、貳百苅、此米貳斗四升、今ハ手作、總兵衛。
　貳百苅、此米貳俵六升給分、彌十郎作。
赤石、貳百苅、此米貳斗六升、五郎左工門。
同所、百苅、此米壹俵三升給分、大膳與右工門。
　百五拾苅、此米壹俵八升五合、惣兵工。
ゑゆくゟり、此米八俵貳升、堀川五良衛門。
　四百苅、本錢四百十文處、同　　人。

赤石、百苅、　此米壹俵三升合カ、　同　人。

手作給分除テ、　給分かけて廿三俵四升。

年貢米分十四表五升也。

高櫛分、仁百苅、此米三表五升、　小笠原和泉。

同惣右衛門。

（挿紙）

『威光坊かゝへまへ畠。

百地、　與五郎。

百地、いぬのとしゝ彌七、いのとしゝ與五郎、同　人。

百地、　威光坊。

五十地、三ふて合、二百地、　同　人。

五十地、

三百地ノ内、百廿五文地、いぬのとし百地、威光坊。　五段田かすへ。

百地、いのとし、　九　助。

〆いぬの年貢廿かり、三文、

三貫百五十文もむへし、

留之中四百六十文斗濟分』

百五拾苅、此米貳表二升五合、　布施屋與三兵衛。

百五拾苅、此米貳表二升五合、　同　與右工門。

仁百五拾苅、此米貳表、先ゝ外記合力田也、一井作。

子年三表七升取、寅年手前留也。

五拾苅、　此米七升、　宮崎新助。

當作甚内作也。

仁百五十苅、此米三表、　惣兵衛。

百苅、　此米壹斗四升、　莊頭百姓　九郎兵衛。

百苅、永荒、此内五十かり起、未年此米壹表濟也。

將監町ノもの當作、伊藤助太郎、本源田作り、　松田與三右衛門。

帳ニ初、挂音坊分トアリ。　深カ

百卅苅、此米五升、　三子次郎兵衛。

〆拾八表九升五合也。

少勸進分。

青柳分。

合百貳拾八升三合。

莊頭分。

本地石堂在家。

壹貫三百地、此年貢本錢仁百七拾六文。
此外出目貳百地、此錢本錢六拾文。
田三百苅、此米ノ錢本代、仁百四拾文。
廿四文代ニ〆壹貫地ニスル也。
とかせ在家。
本地計壹貫七百地、本錢、三百六拾壹文。
本木在家。
本地、壹貫百地、本錢、貳百卅貳文。
三斗島。
本地、壹貫五百地、本錢、仁百廿文。
出目、六百地、本錢、百八十文。
今在家。
本地、壹貫四百地、本錢、三百文。
出目、四百地、本錢、百廿文。
おく山在家。
本地、四百地、本錢、八拾五文。
出目、壹貫六百地、本錢、四百八十文。
高柳在家。

本地、壹貫八百地、本錢、三百八十文。
出目、仁百地、本代、六十文。
宮田、まつり田引、本代、五十貳文。
出目、貳百五十地、本代、七十五文。
田　百苅、此米壹表五升、本代、七拾五文。
本地之分、本代、貳貫九拾五文。
歩錢、本代、七百九拾八文。
右役九升五合、ゑとうまめ、大こん、さゝき、かき、ゑと入次第。
高櫛分、此内貳百苅ハ、此米貳斗四升、森三七郎。
四百卅苅、此内貳百卅苅ハ、貳斗四升、若狭。
〆、五表三升。
威光坊分、本藤次郎作。
あらさ、三百苅、此米五表七升、手作。
同所、仁百かり、此米三表八升、與右工門。
高櫛、五百らり、五表五升、笹木九郎兵衛。
鹽ノ前、仁百らり、三表、本ハ三表七升ニ入ル、鳥、未ノ年より藤八給分、威光坊作也。
同所、百らり、壹表六升、本ところふ外記作。
武田彌八郎。

同所、百五十ゟリやと有トゥや五十ゟり、此米八升、半澤總九郎。
堂增むし、
仁百ゟり、此米貳表六升、小笠原惣右工門。
百卅ゟり、此米貳表、後藤三郎右衛門。
中道、貳百ゟり、此米三表、內藏作當作、莊頭九郎兵へ。
大まゟり、
百卅ゟり、未ノ荒申ノ起ニ六升、當作藤三。
渡邊與八郎作。
百廿ゟり、あつゟり歩合田、此米壹斗四升受、貳升來る也、すゟい甚右衛門。
三百地、屋敷、本代九拾文、山伏中正兄、
小笠原三四郎。
屋敷、當人彌三。
三百地、本代九拾文、勘平。
百地、まゟさ、與五郎。
百地、同所、同人。
百地、戌年斗まゟさニ居、彌七ろう分カ人也。
五十地、亥ノ年ハ威光坊。
〆三筆、仁百地者威光坊。

五十地、
三百地、九十文、此內百廿五文地威光坊、五たんたのもの、本ゟすへ作ろ地也、
本錢卅七文半、式部卿作。
此外仁百七十五文地手作。
四百地、本代百廿文、此內本錢八十文、常力、常力、合百廿文、兩人。
此內本錢四十文、次郎右衛門、二郎右工門、
四百地、本代百廿文、森左京。
三七。
外記。
百地、卅文、ところふ、
田方年貢前米分、廿三表七升、品二ッ此內六升藤三。
畠方本代六百六十文也。
竹葉坊分。
百五拾苅、七升、武田藤兵衛。彌七郎。
五拾かり、永荒かへ付五升也、同人。
七ッ塚、貳百かり、此米仁表六升、三七。
同所、三百かり、三表九升、本藤左衛門作。
もつこけ馬助。
畠貳百廿地、本代六十六文。此內威光坊ヨリ、戌ノ年貢出シテ兩人有リ。

田方米〆七表七升也。
畠方錢本代八十六文也。

（挿紙）
『竹葉坊分袖山之内、一五十地道心作、百地式部卿作、五十地いのとしの手作番内作、一五十地小十郎、一山付のもゝゑけさく同人、一五十地威光坊作、四郎兵衛作、四十地四郎兵へ作、其外とさのゑとゝ。』

桂音坊分。　桒引御供ニ、大やけ升壹斗、常力二斗常樂出也。
百ゝり、五升、　大貳方ヨリ分米取也。
仁百ゝり、仁表、　久助。
五升引四升ニ入、
百五拾ゝり、壹俵九升、　總九郎。
四百ゝり、五表三升、　莊頭今ノ木正助。
百ゝり、壹表、　市衛門。
善九郎。
三百ゝり、四表、　五十嵐善九郎。
百ゝり、五升、　宮仕立付總四郎。
仁百地、六拾文、　月岡源衛門。

岩之澤、　此内七十地、本錢仁拾仁半、　千水主殿。
三百地、九拾文、此内七拾地本代仁十半、　後藤將監。
此内百六拾地、本錢三十五文、　同九郎左衛門。
四百三十地、此内屋敷廿地分也、手作屋敷外四百地、

中島、
二百地、本錢六十文、　常力作。
田方米分十四表七升也。
畠方百八十文。
内御堂分。
百五十かゝり。是チかた、五十ゝりと申也、依而五升濟也。
ましこ縫殿助、
百かゝり、七升、　とかせ與助。
九拾かゝり、永荒ゝへ付　九升、午年五升ニ入ル、定也。
武田升助。神力
百かゝり、申年八升濟、申年より
黒田八郎右衛門作、（藤兵衛作ゝ、彈正彌七郎おぢ作。）
まかさ、
三拾かゝり、分作三升、午ノ年ヨリ、久作作。

百五十かり、壹表七升、五斗出　大　助。
仁百かり、仁表、　久　助。
百五十地、　橋本總右衛門。
百地、こはゐと云處ニ有也、七百地ニ添畠也、本市右衛門手作。
六百地、合七百地、仁百十文、　手　作。

屋敷、
壹間、百五拾地、戌亥ヨリ年手作、東泉坊うらニ有。
田方分七表壹升、
畠方本代、四拾五文、出分其外手作也。
金乘坊分、僧數大師御供、一斗五升、常力ニ出也。
高橋三百苅ノ内、　鈴木惣兵へ。
百五拾かり、此米三表仁升五合、食野内藏助。
百五拾かり、合三百かり兩人して、ところふ、
此米三表仁升五合、　外　記。
二百五十かり、此米四表、增子近三。
此内百かり、此米壹表五升、ところゑ外記作。
六十かり、　此米八升、同人近三。
四百五拾かり、此米五表、本小野藤左衛門作。

戌年五郎左衛門作。
拾束かり、　二升、　作内作。
仁百かり、あゑ地當ため八升、　增子近三。
兩所合百卅かり、壹表三升、　甚　内。
三百かり、此内百五十かり給七、此米四俵八升兩人前、堀川與三。
五百地、本代百五十文、此地付馬人使、堀川五郎衛門。
六百地、此内三百地給七、本代百八十文、此地付馬人使、
同　與三。

衆徒、
屋敷、壹間、　手　作。
右地、本代卅文、實境坊かへ地渡也、番匠松助。
此外屋敷もこし有、四十地ニもる也、合卅貳文ノ本錢、眞如坊屋敷、
本坊跡歸る、　かゑニ渡也。
新五郎作。
七拾かり、六升、在林坊屋敷、本錢卅文かゑニ取也、　布川彦四郎。
田方米分廿三俵四升也。
畠方本代三百卅文也。

双圓坊分。

佛名田、

百三拾苅、壹表五升、　　ところふ外記。

吉祥坊分。

山寺之内八百地、貳百四拾文、とかせ源右衛門。

四百地、三百地ニ〻本代九十文、當代橋本總右衛門かゝへ、五百廿文ト有り、森利助。

奥院用意分。

一五百束苅、物成籾七俵、　作子金那内藏介。

松養坊分。　常樂小使也、此米可尋。

まかゝ田、

百五十かり、

一壹俵五升、　　大助。

同所百五十かり、

一壹俵五升、　　牢澤總九郎。

同所畠らゝ、　戌年錢出〻也。

一〻仁貫貳百七十三文、此三人して安藤九郎兵へ、田畠ノ年貢出也。

高櫛、

一仁表五升、三百ゝり　　とらせ新十郎。

一三升、五十ゝり、　　手前、四郎兵へ。

一五升、　　原町、番匠與助。

〻米六表三升。

此外、　　高櫛十日町ノもの

一三俵、仁百ゝり、奥院ふちりた分、鈴木惣右衛門。

○

拾九俵七升、　　庵室分。

此外青柳十八俵、大師堂灯明佛供、如法堂油田有之。

廿壹俵八升、　　西之坊。

十五俵分程有へし。

廿俵、田方、　　龍城坊。

拾俵、田牛分、畑牛分、　　妙言坊。

廿三升、四俵取上、田方、　　圓藏坊。

拾九俵五升、田方、　　大門坊。

五俵三升、田方、　　左林坊。

拾七俵、田方、四分一畑、　　十連坊。

拾五俵、四分一畑、　　東泉坊。

六俵二升、田方、　　永藏坊。

廿俵、田方、　あつらり。
拾壹俵三升、田方、　太夫。
三俵壹升、田方、　彌一郎。
十五俵、田方、　番匠。
五俵貳升、田方、　幸德。
四俵四升、畑方、　常樂。
七俵、田半分、畑半分、　無量。
五俵七升、田半分、畑半分、　常力。
十一俵二升、田半分、畑半分、　宮仕。
三俵二升、田半分、畑半分、　寶淨坊。
廿七俵三升、田方、　圓乘坊。
拾貳俵、田半分、畑半分、　銀藏坊ニ入。
（本地ハ卅三俵五升、
（四拾壹俵、此内五俵吉祥坊、立上分壹俵五升、　金剛坊分地。
此外畑山有之、惣合而四十壹俵、本張西ハ田方、
廿五俵五升、田半分、畑半分、山田斗也、　花藏院。
十三俵二升、六俵分加增、其外畑、　吉祥坊ゟ分地。

仁拾四俵三升、田半分、畑半分、　中之坊。
拾俵四升、四表分加增、其外畑、　福壽坊。
十七俵二升、五表分加增、田半分畑半分、　蓮乘坊。
廿四俵、出分十八俵四升、田半分畑半分、　自在坊。
十三俵四升、五俵分加增、田半分畑半分、　寶境坊。
十二俵三升、五俵分加增、田半分畑半分、　松養坊。
拾俵、山田畑斗也、　清香坊。
十二俵七升、九俵分加增、其外畑也、　眞如坊。
拾壹俵八升三合、
屋敷壹間四十二文ノ家、金乘坊へ歸る。
拾五俵六升、三俵分加增、其外畑、　松仙坊。
八俵五升、田方、　寶藏坊。
十四俵七升、田方、六分一畑、　不動院。
十二俵壹升、八俵分加增、田方、　鶯舞院。
十一俵六升、三俵分加增、三分一畑、　威光坊。

廿俵、三分一田方、　密蔵坊。
十四俵、仁俵加増分、其外畑、　眞珠坊。
廿七俵五升、田半分、畑半分、　松蔵坊。
廿五俵五升、五分田方、　千手坊。
十九俵七升、田半分、畑半分、　澤之坊。
拾俵、田方、　別當。
三俵壹升、田方、　八郎左衛門。
五十俵、田半分、畑半分、　如法堂分、堂宮直所。
十俵、畑方、　せん法田、七月十四日。
仁俵、畑方、　法用田、正月七日。
仁俵、田方、　聖如田、正月十五日。
三俵、畑方、　ねゝん田、二月十五日。
四俵、畑方、　大師十三日田、正月十三日。

（元和四年卯月）

加増役田之覺、

右之役御穀田。

五俵、此米龍城坊ヨリ七俵出也、　御庵室。

貳俵中之坊、壹俵大門坊ゟ出也、い上西坊十俵分也、

五俵、　西之坊。

五俵、まいやく油とう。

此米法恩坊ゟ出也、　實鏡坊。

貳俵、油とう、此米十連坊ゟ出也、　心珠坊。

八俵、てさてん油とう、此米圓蔵坊ゟ出也、　鷲舞院。

拾俵、てさてん油とう、九俵善行坊、壹俵實相坊ゟ、　眞女坊。

三俵、油とう、二俵分五郎兵衛百姓ゟて濟之、此米松蔵坊ゟ、一俵平右衛門、　成光坊。

三俵、まいやく、此米松蔵坊ゟ、　蓮城坊。

五森、まいやくてさてん、きやうゐてん三人まへ、　松養坊。

六俵、てさてん油とう、此米大門坊ゟ、　吉祥坊。

三俵、きやうゐてん、もち甘きま、酒壹樽、　勝泉坊。

貳俵、此米壹俵薄ノ坊、壹俵大門坊ゟ、　福壽坊。

江戸御普請役銀之事、

一六百五拾石、　立石寺。

此銀四百七拾貳兩七分三輪貳毛、

右銀四月三日ニ、御藏ヘ可指上者也。

元和六年、　　本間作右衛門。

三月晦日、

同八年壬戌四月、大僧正天海、立石寺塔中々性坊ニ、立石寺庵室跡ヲ管領セシメ、最上義俊ニ請ヒ、之ヲ保護セシム。

〔立石寺文書〕

以上。

一書令啓達候、其以來者久々絶音問候、我等事去年於尾州相煩、漸此頃本復仕下着申候、日光山御祭禮付罷越候、然而最上山寺之庵室跡之義、觀音院内意に付中性坊申付候、彌寺相續仕候樣可被仰付候、彼寺之儀、貴公御先祖之遺所候間、別而被入御念成立候樣、御指圖任置候、猶觀音院可有演說候、恐惶謹言。

卯月十日、　　大僧正天海。（花押）

最上源五郎樣。

人々御中。

同年七月、是ヨリ前、松根光廣、家親ノ死去楯岡光直之ヲ毒スト疑ヒ、之ヲ公訴ス、閣老酒井忠世、諸老ト之ヲ糺明ス、左證ナシ、因テ光廣ヲ筑後柳川ニ配流シ、更ニ町奉行島田忠利、米津由政ヲ遣シ、諸老ニ諭告シ、協力一致以テ義俊ヲ補翼セシム、山野邊義忠、鮭延愛綱等

依々命ヲ奉セス、

〔諸家深秘錄〕

同八年の頃、亡父駿河守卒去の事を、家老共の内松根備前（領一萬二千石）と云者、申出したる其子細ハ、先年駿河守家親在國の節、鷹歸野りニ、楯岡甲斐（領一萬七千石）と云者の元に立寄、饗應ありしり、俄に氣色惡く罷成り、翌朝終に頓死致されゝる、追て此儀ハ松根不審をあして曰く、能々思慮を廻らすに、君御頓死の事思へハ不審、其時御鷹野歸りニ、甲斐ら元ニて辨當を御遣ひ有しり、若其時誰ら御毒をも盛奉ゝるにやと思ひ付、此由公儀へ訴へゝれハ、則上聞に達し、酒井雅樂頭忠世承之、彼宅へ老中不殘出坐あり、其儀專ら御穿鑿の處、松根備前ら申分證據無之ニ付而、右の事ハ捨置き、未源五郎儀幼少ニ候の間、義光家親二代共ニ無二の忠功仕ニ付、先祖ニ對し前代之通り、領知異事あく仰付らるゝ者也、然上ハ源五郎儀を、面々宜しく後見仕り守立可申入旨、家老分の八九人に仰渡され候處ニ、右家老分の内、山野邊右衛門大夫義忠（領一萬九千三百石）鮭延越前（領一萬五百石）此両人の者、御請慥ら不成ニ付て、其後島田彈正忠利、米津勘兵衛正上使として仰ニ曰、源五郎儀を隨分守立、先祖兩代之通りに、家中並に領國の仕置等申付られ候ハヽ、右の兩臣申上候ハヽ、以後亦松根同意の者御座候て、分もあき儀ヲを申出し候ハヽ、唯今御請仕り候ても、末々拙者ヲ不調法ニ罷成候之間、私共兩人ニハ御暇被下候樣にと申上候（中略）去ハ松根と山野邊鮭延と、常々權を爭ひ不和也、然といへとも山野邊ハ、羽州義光の末子ニて、駿河守の弟也、尤も源五郎爲ニハ伯父ニて、心意少々不義あり、如何と成ハ、日來嫡家を滅し其孫を奪ひ、最上家を相續せんと欲す、依之兼々鮭延楯岡あとに心を合せゝり、中ニも越前を以て願せゝる、彼上使島田米津

來るの時申樣、源五郎其生れ愚鈍にして、國家を可保氣質に非す、庶幾は山野邊して、家督仰付られ被下度と頻りに願之、時に島田米津聞て、此儀不宜の間、只源五郎を守立可申の由御請すへしと有々れは、山野邊鮭延更に御請せすして、終に最上の大祿を減しゝると也。

同年同月、德川幕府命シテ、最上義俊ノ所領ヲ沒收シ、參河近江ノ地、各五千石ヲ賜フ。

〔最上家傳〕

源五郎十五歳之時、家老仲ケ間として、申分仕出候、十七歳之時、酒井雅樂頭殿於宅、双方御穿儀有之、家老共御預ケに罷成、自餘之大身者共、源五郎守立可申旨被仰付候處、家老共御預ケ之上者、只今御請申上、其已後公事殘黨之族家中に有之、何樣之申分可仕儀も難計候間、從　公儀家老役被仰付候樣ニ奉願候得共、愚父源五郎へ自分として相應之器量之者申付候樣にと、米津勘兵衛、島田彈正殿を以被　仰渡候處、源五郎儀者若輩御座候、家中大身者共、已後殘黨之遺恨之儀存含候や、家老役辭退仕候而、羽州山形へ其趣以飛脚申遣候、內御請到六日遲々仕候、依之家中我々に罷成候儀達　上聞、元和八年八月十八日、出羽國領知被召上候段被　仰渡候、其節源五郎家來、高四萬五千石ゟ壹萬石以上之者十六人、高八千石ゟ千石迄之者六十三人、八百石ゟ百石迄之者八百五拾八人、此節流浪仕候、御扶持方として、江州三州ニて高壹萬石、源五郎に被下置候云々。

同年八月、幕府、本多正純、永井直勝ニ命シ、山形城ヲ沒收セシメ、傍近諸侯ニ命シ、師ヲ出シテ領內諸城ヲ收メシム、是ニ於テ本郡內、山野邊、高擶等諸城悉ク廢毀セラルト云フ。

〔伊達家文書〕

條々。

一國中竹木猥伐採ゝらさゝる事、但野陣之刻者各別事。

一給人方夏成之儀者、出遣之間、可存其旨事。

一家中之輩武具拜資財等無相違、其面々可令受用事。

一未進分可弃破事、付借物者可爲互之一札次第事。

一未進方取つりふ男女之事、未濟同前可弃損、但過二十ケ年者可爲譜代之旨、被　仰出候條、主人覺悟次第之事。

右、堅可相守此旨者也。

元和八年八月廿一日。

條々。

一今度至于最上差遣人數次第事、如被仰出、各令覺悟、諸事可任上使指圖事。

一喧嘩口論堅令停止之訖、若有違犯之輩者、双方可誅罰、萬一令荷擔者、其咎可重於本人事。

一濫不可伐採竹木、并不可押買狼藉事。

一今度在留中、人返停止之事。

一百姓男女事、年貢方未進方共以可弃破、但過廿ケ年者可爲譜代之旨、被仰出候條、主人覺悟次第之事。

右、堅可相守此旨者也。

元和八季八月廿一日。

以上。

今度最上給人中、何方へ參候共、百石ニ付壹疋壹人ゝ而、二日路可ニ相送一候、并家僕之儀有付候所迄令供、主從相對之上、可令歸國候、主人亦無ニ相違一可ニ返遣一候、此旨被ニ仰出一候間、被ニ得其意一、可ニ被申付一候、恐惶謹言。

（元和八年）

八月廿一日、　土井大炊助（利勝）

本多上野介（正純）

酒井雅樂頭（忠世）

永井善左（安盛カ）衛門殿。

渡邊半四郎（宗綱）殿。

最上氏收封諸覺書。

一山形之城。

本多上野介（正純）殿。

永井右近太夫（直勝）殿。

那須乘一字（マヽ）。

方々門番也。

近藤簡右衛門殿。

堀田簡左衛門殿。

庄田小左衛門殿。

駒井右京殿。

石河八左衛門殿。

同三右衛門殿。

井上新左衛門殿。

大河内平十郎殿。

小又吉左衛門殿。

元和七年ゟ山形御横目衆。

石丸兵衛殿。

稲葉傳四郎殿。

當三月ゟ山形御横目衆。

華房彌左衛門殿。

岡田新三郎殿。

方々より上野介殿衆。

右近殿へ被付置候衆。

佐竹（義宣）殿ゟ。

梅津主馬。

長尾殿（上杉景勝）方。
鐵孫左衛門。
下野殿（蒲生忠郷）方。
志賀五左衛門。
後藤三郎衛門。
脇々城被相渡覺之事。
一上之山ノ城、　米澤衆。
但、上ノ山兵部居城也、知行三萬石。
一長谷堂ノ城、　同。
坂紀伊守居城也、兵部親也。
一山野邊ノ城、　同。
山野ベ右衛門殿居城、壹萬七千石。
一八澤、　同。
右御内人知行。
一高玉之城、　同。
青藤伊豫居城、知行五千石。
右以上五ヶ所。

御横目。
○
一東根城。
里見源右衛門居所、知行壹萬七千石、
大條兵庫。
奥山大學助。
高橋次郎衛門。
一野邊澤。
野邊澤遠江居所、知行貳萬七千石、
富田平内。
青木筑前。
秋保善太夫。
伊達安房守（成實）殿。
一小國城。
小國日向居所、知行壹萬七千石、
佐藤甚三郎。
石川民部太輔殿御下衆。
一新城。
御藏入、日野將監預り、
須田次衛門。
中島與市。
大山助兵衛。
橋本甲斐守。
御横目、濱田外記。

一清水。　安藝守殿。（定宗）
御藏入、日野將監預り、知行貳萬石、　大町主計。
片倉小十郎內。
御横目、大町勘解由。
一間室之城、　伊達安藝守殿。
御藏入、日野將監預り、新田式部、　御横目、笹岡備後。
右三ヶ所、合四萬石。
一金山城、　大町主計、　新田式部少輔。
片倉小十手前、　伊達相模守。
兎部鎌前居所、知行壹萬七千石、　御横目、支倉助二郎。
右以上七ヶ所。
御横目。
永井善左衛門殿。
渡邊半四郎殿。
一鶴ヶ岡城、　會津衆。
庄內、　北川土佐。
新關因幡居所、知行入萬石、

一大山城、　同。
同、本山壹前。
下長門居所、知行壹萬七千石、
一松根城、　同。
松根備前居所、知行壹萬三千石、　梅ヶ原彌左衛門。
御横目衆。
山田十太夫殿。
水野河內殿。
一龜ヶ崎城、　相馬大膳殿。（利胤）
庄內、
志村伊豆居所、知行三萬石、跡無御藏入也、
一本庄城、　秋田衆。
ゆり、
本庄壹前守居所、知行三萬七千石、
一瀧澤之城、　同。
同、
瀧澤兵部居所、知行壹萬六千石、
一飯岡、
飯岡甲斐守居所、知行壹萬六千石、
一若木、

ちんやう隱岐居所、知行貳千石、

一飯田、

飯田大和居所、知行五千石、（政宗母最上氏）

御東樣御迎衆。

宮川因幡。
富塚内藏頭。
遠藤式部少。
同飛驒。

御路衆。

大町宮内少。
飯淵尾張。
新田刑部。
生江八右衛門。
川野拾左衛門。
遠藤彦作。
青木清三郎。
大和田伊與。

鶴田主水。
遠山因幡。

山形ニ詰候衆。

大條薩摩守。
馬場藏人主。
吉田忠兵衛。
吉田簡右衛門。
星甚兵衛。
森下作藏。

次第。幕府上使以下、

本多上野殿。（正純）
長井右近殿。（直勝）
相馬大膳殿。（利胤）

御横目衆。

近藤簡右衛門殿。
堀田簡左衛門殿。
庄田小左衛門殿。
駒井右京殿。

石丸六兵衛殿。
渡邊半四郎殿。
長井善左衛門殿。
島次左衛門殿。
石河三右衛門殿。
同　八左衛門殿。
山田十太夫殿。
水野河内殿。
以上。
本多上野殿、御年寄衆。
武井九郎衛門。
内野半左衛門。
大窪壹岐。
本多出羽殿(正勝)、御年寄。
安藤利右衛門。
山田彦左衛門。
加藤内記。
長井右近殿、御年寄。

内藤簡右衛門。
長田藤藏兵へ。
大野きりの助。
伊達氏、最上諸城受取人數。
一東根、　大條兵庫頭(宗頼)。
一野邊澤、　伊達安房守(成實)殿。
一清水、　伊達安藝守(定宗)殿。
一金山、　大町主計助(元頼)。
一眞室、　新田式部少輔(義親)。
一新城、　中島と一(宗信)。
　　大山助兵衛(常久)。
　　橋本甲斐守(隆親)、手前、御町衆。
　　高橋二郎右衛門(元久)、手前、御名懸衆。
　　富田平内(重之)、手前、御名懸衆。
　　青木筑前(陸中)、手前、
　　秋保善太夫(信重)、給主衆。

一小國、　佐藤甚三郎（實信）。
　　石川民部太輔（宗昭）殿。御手前。
以上。
今度最上へ之人數積。
石川民部太輔。
鐵砲、　百挺。此内馬上五騎。
伊達安房守。
人數、　六百人。
伊達安藝守。
人數、　六百人。
伊達相模守。
人數、　六百人。此内馬上廿騎。
片倉小十郎。
人數、　三百人。此内馬上十騎。
奥山大學助。
人數、　仁百人。此内馬上八騎。
新田式部。
人數、　六十人。此内馬上三騎。

大町主計。
人數、　七十人。此内馬上三騎。
中島七一郎。
人數、　百人。此内馬上五騎。
大條兵庫。
人數、　百人。此内馬上五騎。
佐藤甚三郎。
人數、　卅人。此内馬上仁騎。
御旗本之御鐵砲三百挺。馬上六騎。

〔行軍纂錄〕

條々。

急度申遣候、最上へ御勢遣候間、其元之人數悉差越候而、直江者共皆々可ニ相立一由、早々可ニ申付一候、長尾權四郎、新津内記、芋川縫殿頭三人、人數ニ付置候間、其役可ニ相心得一之由、可ニ申付一候、直々足輕鐵砲能樣ニつもり可ニ相立一候、其方ハ無用候、其元ニ而用可ニ申付一候、人數千五百と被ニ仰出一候、謹言。

八月廿一日、　景勝花押。

志駄修理殿。

〔仝〕

今度最上江御勢遣被ニ仰付一候間、其元人數皆々可ニ相立一由申越候、其方兩人、芋川縫殿頭三人、談合

候而、總人數數參武主ニ成、能々入念可ニ申付一候、子細者芋川可一申候、謹言。

八月廿一日、　景勝花押。

長尾權四郎殿。

新津　内記殿。

〔仝〕

急度申遣候、最上江御勢遣被一成候、御仕置御坐候、爲一其本多上野、永井右近方被一參候間、其方其元人數召連、早々可一立候、千五百之切手、早々侍共皆々差越候間、其段可ニ申付一候、爰許番轉之者共無用ニ候、何茂最上江可ニ相立一候、權四郎、新津、芋川三人江、總人數爲一捌、其方者別而人數添候而、上州永井殿、何ニ而も用事被ニ申付一者、其段可ニ相調一候。

上意ニも此由被ニ仰付一候、謹言。

八月廿一日、　景勝。

黒金孫左衛門殿。

〔仝〕

今度最上江御勢遣ニ而、御仕置御坐候、爲一其上州永井右近殿、彼地江被一參候間、何茂早々用意候而、可ニ罷立一候、爲一其急度申越候、權四郎、新津内記、芋川三人、總人數ニ付置候間、其段相心得彼者如申尤候、謹言。

八月廿一日、　景勝。

須田又太郎殿。

色部修理殿。

島津玄蕃殿。

安田筑前殿。

岩井七郎太郎殿。

芋川彦八郎殿。

井上甚四郎殿。

香坂兵衛七郎殿。

甘粕總五郎殿。

須田與十郎殿。

西條彌三郎殿。

網嶋庄三郎殿。

大室源次郎殿。

夜交彌七殿。

〔仝上〕

一當年城々御番之衆、御法度之儀、御黒印之旨を、可一被一存候事。

一城々ノ家戸、立具、たゝみ以下目錄を仕立、其帳を以可一有ニ御渡一候事。

一城々番衆、侍之屋敷を請取可一被一居、町中へハ可一爲ニ無用一事。

一武具其外兵糧以下、源五郎殿ゟ預り申物をハ、留置可一被一申事。

一燒木ヲ取候事、村近邊林並立山之内ハ、堅可ㇾ爲㆓無用㆒之事。

以上。

九月七日、　石川三右衛門。

島　彌左衛門。

米澤中納言殿。

御名代中。

〔仝上〕

條々。

一不ㇾ可㆓押買狼藉㆒之事。

一山林竹木きり取るからさる事。

一當秋成之儀、一圓不ㇾ可㆓納所㆒之事。

一百姓男女之事、年貢方未進方共、以可ㇾ弁㆓破之㆒、但過廿ヶ年者可ㇾ爲㆓譜代㆒之旨、被㆓仰出㆒之條、主人覺悟次第之事。

一奉公人者、主人有所を見屆、其上相對次第之事。

一於㆓國中㆒濫鐵砲打へからさる事。

一最上奉公人へたいし、少も慮外致間敷事。

右、條々相背族於有之者、可ㇾ爲㆓曲事㆒者也、仍如件。

元和八年　　一九〇

戌九月七日、　判（將軍秀忠）

永井右近大夫。

本多　上野介。

〔行軍纂錄〕

覺。

上之山御城本丸、諸給人家數請取之事。

一拾四間者、但屋敷數、　二之丸之内。

一貳拾三間者、宿同斷、　湯之小路。

一貳拾四間者、宿同斷、　二日町。

一七拾八間、宿同斷、　鐵砲之者家。

合百三拾九間者、　屋敷大小共。

右慥請取申所實正也、仍如件。

九月八日、　芋川縫殿（小印）

坂　重内殿。

川　三左衛門殿。

相馬新左衛門殿。

右之外、最上庄内油利被召上、依之延澤城、清水城、東根城、伊達大崎中納言政宗家來請取之、油利城、佐竹家來請取之、庄内三郡、那須七騎衆家來請取、此外相馬長門守、南部信濃守、津輕越中守、其

一九一

外下越後衆口々江來、城々請取、山形本城、本多上野介正純、永井右近大夫直勝御請取有之。

〔長尾文書〕

覺。

上之山、　芋川縫殿頭。
長谷堂、　島津玄蕃允。
山野邊、　長尾權四郎。新津内記。
八沼、　色部修理亮。
高玉、　本城出羽守。

同年九月、本多上野介正純罪アリ、直ニ由利郡ニ配置セラレ、其兵具ハ山形城ニ保管セシム。

〔藩翰譜〕

元和五年に下野國宇都宮の城を給ふ十五萬石正純政務を助くる事凡廿三年、元和八年出羽國の最上ゝ家亡びし時、御使を承りて山形の城ニむゝひ、父子忽に罪蒙りて、此處より同國由利の地ゑ流さるオ五十子息正勝父に先立て卒ゑ、正純七拾三才にして、寛永十四年三月十日、終ニ配所ゑてこそ死してゞれ。

同年十月、左京亮鳥居忠政、岩城ヨリ山形へ移封セラレ、二十四萬石ヲ食ム、現今本郡各村殆ト忠政ノ采邑ニ歸ス。

〔史料雜集〕

鳥居左京亮忠政、廿四萬石、御城築。

元和八年壬戌十月十三日、岩城より山形へ入部、御上使長尾右近、寛永五戊辰卒す、岸山玉雄大居士と号す。

〔藩翰譜〕

元和八年、陸奥出羽等ノ守護ノ爲、出羽國最上ノ城ニ移サル、廿四萬石、○此時ニ酒井宮内少輔、戸澤右京亮、松平丹後守等、奥羽ノ地ニ移サル、是ハ皆忠政カ親族タルカ故也、一説ニ寛永三年、羽州寒河江二萬石ノ加賜ニテ、凡二十四萬石ヲ領スト云、去ハ始ニハ二十二萬石ヲ下シタマハリシニヤ。

同年同月、上杉景勝ノ將長尾景廣等、山野邊城ヲ破却ス、幕吏島彌左衛門、石川三右衛門等、書ヲ景勝等ニ與へ、城内ノ諸器具將士ノ邸宅ヲ、庄屋并ニ肝煎ニ交付シ、解テ國ニ歸ラシム。

〔長尾文書〕

已上。

一書申入候、其表破却相究申候通、鳥居左京殿、永井右近殿へ申入候、御隙を被明次第、御歸候樣ニとの御事ニ候間、早々御歸國尤ニ候、此中御苦勞難申盡候、御暇乞申度存候へ共、山形ニ用所御坐候間、直々御通可被成候、城之内之符道具、侍町之家、所之庄屋肝煎ニ渡可被置候、猶御使者申入候、恐々謹言。

十月十四日、　石川三右衛門。
島　彌左衛門。

長尾權四郎樣

同年同月、宮内大輔酒井忠勝、莊内十三萬八千石、弟右近直次ニ、村山郡左澤領一萬二千石、同長門守忠重ニ白岩領八千石ヲ賜リ、信濃國松代ヨリ、丹後守松平重忠、上山四萬石ヲ賜リ、遠江國横須賀城ヨリ、右京亮戸澤政盛、最上村山二郡ノ地六萬石ヲ賜リ、常陸國松岡城ヨリ眞室城ニ移ル。

〔御系譜參考〕

元和八年、改ニ松代城領ニ羽州莊内ニ賜ニ十三萬八千石、莊内御拜領の事、被ニ蒙仰ニ し ハ九月の由、日ハ不ニ傳、○信正曰、莊内後ニ鶴ヶ岡といふ、最上源五郎領分、元和八年ゟ、らの家減知、領地悉く被ニ召上ニ、忠勝公鶴ヶ岡、龜崎両城御拜領也、○此時公儀御役人衆より左の目錄渡る。

川北。

一高五百卅石三斗七升八合、　關村。
一同、　何村。
一同ゝゝ、　何村。

小以四萬五千四百六十六石九斗四合、

川南。

一高六拾四石八升四合、　大鳥村。
一同ゝゝ、　何村。
一同ゝゝ、　何村。

小以五萬五千五百卅二石四斗九升四合、

一高千七百四拾四石貳斗八升四合、　黒川村。
一同ゝゝ、　何村。
一同ゝゝ、　何村。

小以八千四百四拾七石九斗六升六合、

一高六百六拾九石八斗壹升、　立谷澤村。
一同ゝゝ、　何村。
一同ゝゝ、　何村。

小以千九百九拾六石五斗六升六合、

一高千四拾七石八斗壹升六合、　下田川村。
一同ゝゝ、　何村。
一同ゝゝ、　何村。

小以六千二百拾七石七斗八升四合、

右之外、

一高四石、　寺田村。
一同ゝゝ、　何村。
一同ゝゝ、　何村。

小以百八拾四石四斗六合。
庄内大山筑前知行分。
一高三百六拾五石四斗五升、　鼠ケ關村。
一同〻〻、　何村。
一同〻〻、　何村。
小以壹萬九千六百廿五石四斗八升四合。
高合拾三萬八千七拾壹石六斗四合。
右之分相渡申候間、可有御所務候、是〻在々より差出を取、都合究申候、若百姓隠置候處、可有御座候間、能々御穿鑿候而、重而可被　仰上候、爲覺如此書渡候、次ニ小物成寺社領之分、右之分別紙書渡申候、但寺社領之儀〻、重而江戸より可被　仰付候、已上。
元和八年戌十月十九日、　井上新左衛門。
坪井　金太夫。
諸星　藤兵衛。
小股吉左衛門。
大河内助十郎。
伊丹　喜之助。
酒井宮内大輔殿。
左澤。

一高九拾九石貳斗五升五合、　大卷村。
一同〻〻、　何村。
一同〻〻、　何村。
高合壹萬貳千石。
（以下前同斷。）
酒井右近殿。

〔戸澤御系圖〕

同八年壬戌、鳥居右京亮忠政、蒙　尊命、從奥州岩城、移羽州山形、此時政盛公亦蒙　尊命、轉常州松岡、於羽州最上村山兩郡之内、加賜貳萬石、本領高合而六萬石拜受之、初居最上郡之内眞室村、後移新庄之城。

〔藩翰譜〕

大弼守源重勝ハ、和泉入道殿第十ノ御子、次郎右衛門尉光親ノ曾孫也、光親始テ三河國額田郡能見村ニ任セシヨリ、其子孫能見ノ松平ト申也、（中略）元和五年、遠江國横須賀城ニ移ル、嫡子丹後守重忠父ニ繼、元和八年、出羽國上山ノ城ニ移ル、男子ナクテ小笠原兵部大輔秀政ノ三男ニ、娘アハセテ世繼トシ、市正重直ト申ス。

〔最上記〕

最上源五郎義俊公、御改易之後、羽州石高之覺
一寒河江領貳萬石、　江戸御藏入ニ被遣、鳥居左京樣御預所。

一山形御城下貳拾貳万石、　鳥居左京樣知行所、此節延澤銀山出勤。
一上ノ山高四萬石、　松平丹後守樣御知行。
一白岩高八千石、　酒井長門守樣御知行。
一左澤高貳萬石、　酒井右近樣御知行。
一新庄高六萬八千貳百石、　戸澤右京樣御知行。
一庄内鶴ヶ岡高拾四萬石、　酒井宮内樣御知行。

同九年癸亥七月、鳥居忠政所領ヲ撿地ス。

〔小關村押野氏記錄〕

天正十二年十月十日、山形城主義光公出陣有テ、天童ノ城ヲ攻メ落シ、賴久公奥劦ヘ落行候也、其時ノ家來押野牛之助信明ト申侍ニテ御座候、主人落給ヒテ後ハ、無據勝手次第ニ相成リ候ト御意有之、押野惣右工門ト改名致シ、小關村ノ住人ニ成變リ候處、名主役ニ罷リ在候、山形城主元和八壬戌年、廿四萬石鳥居忠政公樣御入部ニ成サレ候、元和亥九年、當村ヘ御撿地ニ御座候、其ノ時ノ名主役、押野助右衛門信明ト申傳候也。

〔史料雜集〕

鳥居左京亮源忠政、　廿四萬石。

右土地拜領之刻、忠政家老家老鳥山和泉、於天童城山見積リ之地面をもつて、廿四万石被下候間、御請可申上旨被仰渡候間、御請ニおよび、其後撿地を入候處、廿萬石有之候ニ付、無據田畑はあり代御載被成候、依之此時お斗代上らせ候、縄張を今に至る迄左京縄と唱申候。

〔書留帳〕

元和九亥年、鳥井左京亮樣御撿地、上田壹反ニ付面、取米壹石壹斗五升代、同上畑三斗五升代之御調。

〔江俣村文書〕

元和九年水帳拔書、

せき田、拾六間、廿三間、　上田、　壹反二畝八歩、　横澤源右衛門分、安藤左次衛門代官、　江俣、八内。
百苅貳俵、
ふさし町うら、六間、十八間、　上畠、　三せ十八歩、　武田惣内分、竹内武兵衛代官、　大行河原、矢内。
本錢貳拾文、
かまら田、十貳間、五十間、　中田、　仁反歩、　石井小四郎分、中根彌次助代官、　下條戴砲町、今兵衛。
七十苅壹俵、
江俣尻、拾間、十八間、　中畠、　六せ歩、　御藏分、安左次衛代官、　江俣、掃部之助。
本錢拾三文、
地藏の後、三間、十五間、　下田、　壹せ十六歩、　武田長助分、高須莊右工門代官、　藥師町荒町、小市郎。
三百苅六俵、

本屋敷、九間、廿四間、　下畑、　壹反六歩、　黒木新助分、竹内武兵衛代官、　宮宿、掃部。

本屋敷、六間、十六間、　中畑、　三せ六歩、　左藤甚内分、安左次衛代官、　江俣、與五衛門。

大豆壹斗貳升、

田中、拾九間、六十三間、　上田、　三反九せ廿七歩、　草苅小五郎分、中根彌次助代官　いらこ、信濃外屋敷、作衛門。

四百五十苅、八俵貳斗五升、

同所、四間、四間、　中田、　十六歩、　うちゑ分、安藤左次衛門代官、　江俣、掃部之助。

五束かり五升、

拾間、廿四間、　上田、　壹反壹せ十歩、　吉次の宮油田、　宮宿、彦衛門。

百苅壹俵貳斗五升、年貢不出、

〔若松村文書〕

紙數五拾枚、四帖之内、

墨付四拾七枚上紙共ニ、

案内、右　京印

主　計印

惣右衛門印

惣　助印

出羽國山形領天童之内、山家村御縄打水帳、

元和九年癸亥七月廿七日、

高橋金兵衛印

加藤惣次郎印

奥村市兵衛印

按本郡中、元和九年ノ檢地帳ヲ保存スルモノハ、高擶、山家、門傳、江俣、志戸田、鎌洗、内表等ノ諸村ナリ。

寛永元年甲子九月、鳥居忠政、其吏高須彌助、鳥山和泉ニ命シ、所領郷村ノ租税ヲ徴收セシム、コレ所謂定納一紙ナリ、今其一ヲ錄ス。

〔小鹽村文書〕

小鹽村定納之事、

一高百拾六石九斗二升四合、

此内、

八斗、

上田、五反拾四歩、　取四石三升七合、

七斗、

中田、九反四せ廿壹歩、　取六石六斗貳升九合。
六斗、
下田、貳町五反八せ拾壹歩、　取十五石五斗貳合。
四斗、
下々田、六反貳せ九歩、　取貳石四斗九升仁合。
小。
三斗、
中畠、壹反壹せ十八歩、　取三斗四升八合。
二斗五升、
下畠、三町七反貳せ十五歩、　取九石三斗壹升仁合。
壹斗五升、
下々畠、貳町貳反四歩、　取三石三斗貳合。
三斗五升、
屋敷、六反七せ廿六歩、　取貳石三斗七升五合。
小。
田畑合拾壹町三反七せ廿八歩。
此取四十三石九斗九升七合。
山崎村ゟ小鹽村へ入分。

六斗五升、
下田、八反七せ十九歩、　取五石六斗九升六合。
小。
惣田畑合十貳町貳反五せ十七歩。
此取四十九石六斗九升三合。
右之分霜月晦日を切ニ、毎年急度可致皆納候、大豆金子油荏其外年貢ニ受納之義ハ、其年ニより候而、ねゝんの替り可有之候間、積りを以可相立者也。
寛永元年子九月十日、　鳥　和泉印
高　彌助印
小鹽村、
名主百姓中へ。

同年十二月、幕府、絹紬綿布ノ長幅ヲ規定シ、之ヲ令ス。
〔採訪史料〕
定
一絹紬の事、壹端ニ付長、大工かねニて三丈二尺、幅壹尺四寸。
一布木綿之事、壹端ニ付長、大工かねニて三丈四尺、幅壹尺三寸。
右織物之寸尺如斯御定之上者、長幅不足之絹布賣候においても、來年四月より、見合候もの可取之者也。

寅十二月七日、

同年某月、山形城主鳥居忠政、松林ヲ若松ノ山地ニ植シ、若松寺ヲシテ之ヲ保管セシム。

〔若松寺文書〕

御用松林。

兜山、

間坂、

五本松、

後山、

木數七百本。

右之改場所ニ定置、大切ニ御守可申候旨、右之通急度仰渡置可申者也、爲後日依而如件。

元和子年、

鳥井左京助印。

同三年丙寅某月、鳥居忠政、從四位下ニ叙セラル。

〔藩翰譜〕

寛永三年、從四位下ニアクラル。

同年十月、上山城主松平重直、攝津國三田城ニ轉封セラレ、上山ヲ中務大輔松平忠知ニ賜ヒ、四萬石ニ食マシム。

〔寛明日記〕

十月廿八日於京都、松平下野守忠郷（氏郷之孫）カ舍弟、中務大輔忠知ニ、被下出羽國上山城四萬石、十一月、松平中務大輔忠知、羽刕上山ヘ入部。

同四年丁卯二月、上山城主松平忠知ニ、伊豫國松山城、并近江國日野、合テ廿四萬石ヲ賜フ、山形城主鳥居忠政ニ命シ、上山城ヲ守ラシム。

〔上山町史〕

忠知ノ伊豫ニ封セラルヽヤ、山形城主鳥居左京亮忠政ニ命シ、上山城ヲ監守セシム、忠政其將稲四郎左衛門ヲ遣ハシ、之ヲ守ラシム。

〔寛明日記〕

二月十日、松平中務大輔忠知、被召故自上山參勤、被仰渡曰、忠郷無繼子故、會津六十餘萬石被召上、忠知ニハ新規ニ伊豫國松山城、并本領日野牧（江州）都合廿四萬石被下也。

同五年戊辰某月、下總國相馬郡山城守土岐頼行、上山城ニ封セラレ、二萬五千石ヲ賜フ、三月二十八日頼行上山ニ入部ス。

〔上山町史〕

頼行ノ祖父山城守定政、幼時菅沼常陸介ニ養ル、因テ菅沼藤藏ト稱ス、年十四、德川家康ニ仕テ戰功アリ、下總國相馬郡一万石ヲ給フ、請テ本姓土岐氏ニ復ス、父山城守定義、定政ノ後ヲ繼キ、大番頭トナリ、攝津國高槻城ヲ賜ヒ、貳萬石ヲ食ム、元和四年病テ卒ス、男頼行幼ナリ、移シテ相

馬郡一萬石ヲ給ヒラレ、是ニ到テ上山城ヲ給フ。

同年九月、山形城主從四位下鳥居忠政卒ス、年六十、長源寺寺ニ葬ル、峰山玉雄ト法諡ス、男忠恒續ク。

〔藩翰譜〕

コノ年九月五日、六十歳ニテ卒ス。

〔史料雜集〕

左京亮寛永五戊辰年九月五日卒ス、法号峰山玉雄。

〔羽陽雜誌〕

一禪宗、本寺岩城長源寺、淵寶山長源寺。

元和壬戌年鳥井左京大夫殿、岩城自山形江御所替、御亡父鳥井彦右衛門殿、法名淵寶長源、爲御位牌所御造營被成、其後寛永五年、左京大夫殿御逝去、号俊嶽院殿峰山玉雄大居士、長源寺開基也、夫より米百俵宛、御代々守護之城主より被下者也。

明正天皇、同七年庚午九月、立石寺圓海、若松來吁院ノ不法ヲ、比叡山ニ具申ス。

〔立石寺文書〕

謹言上。

夫若松寺草創者、傳聞神亀五暦比、行基菩薩、最上河棹篙舟、刻當東嶺鈴音滿耳、尋彼地視此所、三龍溪深五龍峰高、胎藏八葉蓮臺金剛五智、立鈴杵松風吹縛曰、羅響鍵吒呼令應其長聲、聖觀自在菩薩摩訶薩、松自翠葉放大光明、三拾三身現、聖容十九說法、靈瑞是新也、故山号鈴立山、寺号若松寺、本尊奉崇若松三所權現矣。

清和御宇貞觀二年、慈覺大師中興、開山、法華八講法樂、如法堂建立、法花三昧令執行、三季祭禮令興起、因茲權現倍增、和光同塵、威力轉令八相、成道法輪云々、自爾以來山上七ヶ所、閑梨秘密本地供、行法無退轉、山下二六供僧從衆、逆順十二因緣、表流轉還滅門、出入不退、堂番晝夜無懈怠、始正月自修正、終至佛名會、年令之祭祀、月令之講演、鎮國安全御祈願無退慢、依之一心稱名之人、福智圓滿、一聞名号族、諸願成就、將亦連袂貴賤運步、道俗見物聞法輩、應丹祈誠念預、音聲皆得解脫記莂矣。

抑彼山延台家法、延子細者、慈覺大師天台法流被移置謂也、故此寺之衆徒者、延暦寺山門戒檀院而、致授戒定座居勤法事守之、然近年芝來吁住別當職、慢收諸役田、退矢坊領、恣致所務滅却、大師法流山上之清僧、爲如何令追拂哉、山下衆徒爲何俗人令成哉、本寺之出仕爲如何令停止哉、三季之神德爲何衆張令不入哉、惣而背慈覺遺法、失台家法用、其咎難遁、此段重而山門當寺以一綿急度可相尋者也。

寛永七年午菊月十三日、　立石寺圓海。

同九年壬申某月、鳥居忠恒、寒河江領代官豊田壹岐ヲ罷免シ、石黒茂助ヲ以テ之ニ代ラシム。

同十三年丙子七月、山形城主忠恒鳥居忠恒卒ス、鐵山玄心ト法諡ス、忠恒子ナシ、幕府其邑ヲ沒收シ、更ニ弟主膳正忠春ニ、信濃國高遠三萬石ヲ賜フ。

〔武家除邑錄〕

出羽國山形城主、

一貳拾三萬石、　鳥居左京大夫忠恒。

同十三年卒、無子邑除、弟主膳忠春江三萬石賜。

〔藩翰譜〕

主膳正平忠春ハ、左京亮忠政カ三男、忠恒卒シテ世繼ナケレハ、彼家自ラ絶ヌ、爰ニ忠政カ三男有ト聞召及レタル、彼父祖ノ功ヲ思召カ故ニ、侍ニ召仕ハルヘシ、仰有テ新ニ信濃國高遠ノ城ヲ賜フ、

〔史料雜集〕

鳥井伊賀守忠恒。左京亮嫡男。

寛永五戊辰家督、則左京亮と号す、寛永拾三丙子七月七日、於江戸逝去、鐵山玄心大居士と申、伊賀守家督無きに依て、舍弟主膳正へ三萬石被下、信州高遠へ所替、御上使松平出雲守、松平右衛門大夫、但し左京亮伊賀守二代、山形居城十五年、

同年八月、遠江國高遠城主肥後守正之、山形城ニ封セラレ、二十萬石ヲ賜フ。

〔仝〕

保科肥後守正之、　貳拾萬石。

寛永拾三丙子八月、信州高遠ゟ入部、御上使丹羽平左衛門、鈴木友之助、城請取保科式部。

同年九月、山形光明寺代官大宮彌五作、諏方喜左衛門等、風間村以下寺領年貢ノ事ヲ、東山村掃部助等ニ令達ス。

〔光明寺文書〕

風間村、切畠、中里、菰石、右光明寺領之內、新田畑ゟ、已來光明寺へ年貢可ニ相納一候、但此度御上使御兩三人之御應ニ而、如此申付旨也。

寛永十三子ノ九月三日、

大宮彌五作。印

訪方喜右衛門。印

東山村、

掃部助。

久藏。方へ、

同十四年丁丑五月、保科正之、明年ヲ以テ所領ヲ撿地セントシ、諸社寺ニ令シ、所有地ノ緣由ヲ啓申セシム。

〔龍門寺文書〕

出羽國最上村山郡山形內、登鱗山龍門寺者、曹洞之一宗也、　抑文明貳庚寅歲、爲ニ右京大夫源朝臣義春、其子息修理大夫義秋、建ニ立龍門寺一、請ニ朴堂和尚一爲ニ開山一、則寺領百八拾石被ニ付置一候。

覺。

一高六拾四石八、　　出羽國村山郡、
一高六拾石八、　　山形宮町ノ内五明、
一高五拾三石八、　　同國同郡、山形ノ内東原、
一高三石八、　　同國同郡、長町村ノ内、
　　同國同郡、七浦村之内、

右惣高合ヲ百八拾石也、

一從朴堂和尚代々之住持、愚僧迄十二代也、開山朴堂和尚、文明年中ニ、本寺總持寺ヘ住番被仕、其已來十一代目存朔和尚、寛永九癸酉年、住番被相勤候、此自存朔和尚、甲戌年、龍門寺相請取入院仕候、

一龍門寺十二代目拙僧了察、與申候、於關東廿年修行相極、元和四年之夏、於江戸神田大圓寺江湖頭仕、寛永二年乙丑歳、淺草慶養寺ニ致入院、同六年巳巳ノ春轉衣仕、同十月癸酉冬江湖指置申候、

一從古御國之惣錄、自總持寺被申付、源五郎代迄仕候、其上元和元年之比、從　權現樣、永平寺ヘ、日本之諸末寺之諸法度被仰付候時分も、　御朱印之寫、御國之内へ者、寶祥寺、龍門寺兩寺へ被指越候、于今相納申候、

右條々任御意、子細書立指上申候、以御慈悲ヲ御朱印頂戴仕候樣ニ奉願候、

能劔總持寺本末寺大徹派、

寛永十四丁丑歳、　龍門寺、

御奉行所、　　卯月日、　了察、（花押）

〔立石寺文書〕

出羽國於最上村山郡成生庄、

寶珠山立石寺、阿所川院、

清和天皇御願所、慈覺大師之御建立、貞觀二年庚辰草創、同御入定之地、山上ニ根本如法堂、挑三火一灯、法灯不斷、法花三昧之行法不退轉、山下日吉山王七社、根本中堂、常行三昧法事、三季祭禮、每年八講、每月二度論儀、一切經會、護摩供養法田、付庵室、日牌月牌田之事、

合千四百貳拾石、

内八百石分、　此内、
四拾三町八反三畝歩、九斗代、　高楡村内、
七百八十八表四斗七升、但五斗入、

内五百石分、　此田、
七町三反九畝歩、六斗代、　山寺村ノ内、
米方八拾八表三斗四升、但五斗入、　東山村ノ内、三寶岡、
五反歩、九斗代、　五斗入、
九表、　此田、

内百貳拾石分、

六町四反貳畝拾五歩、九斗代、　青柳村ノ内。
米方、
百拾五表三斗貳升五合、　五斗入。
本代、　山寺ノ内。
貳拾貫七百八拾六文、畑方、　青柳ノ内。
米直、
四百拾五表三斗六升、
惣田方、
合五拾八町壹反四畝拾五歩。
但五斗入。
合千四百拾七表四斗九升五合。田方、畑方共ニ
右之外、畑方、
荏油貳石九斗八升八合、　荒屋村ノ内。
奥ノ院外陣常燈油田。
外ニ、
大師講山、　如法堂山。
山王祭、其外地付之諸役山。
右、此金剛杵田、大師御入唐之時、所持之金剛杵、清凉山雲上、誓投之日域、當國飛來、歸朝有之而

廻國剣、件五智之杵、於當國五ケ村見出給、其四至坪定所之灯油田合三百八拾町、然ニ依經數百歳、其内或立城或郷村替、依之漸々令沒落、中比正慶元弘年号、就長吏職　御綸旨、御敕書等之證文有之、近代天正年中ニ、獨古田井祭田六町、天童落城之時、愛宕被相付、只今寶幽寺高入沒落仕候高楡村ニ百八拾町之寺領ヲ、出羽守舍弟依爲拾威、百町被沒取、殘而八拾町、慶長八年被相渡候、此内三拾町長吏分給所江渡、千石之内罷成候、古ハ神事祭禮等被相勤候、長吏職斷絶仕、漸殘而衆徒役田許ニ御座候。
寛永拾四季丁丑五月日、　立石寺、衆中、
御奉行所。

【寶光院文書】

出羽國於最上村山郡金井庄、
妙圓山形照寺寶光院、　天台宗。
山王大權現寺社領事。
高其百九拾四石九斗六升。
右之内。
拾石三斗壹升、　七浦村之内。
拾六石四升、　裏表村之内。
四拾壹石三斗、　椹澤之内。
貳拾石五斗、　漆山之内。

拾七石貳斗六升、　西田表、稲荷塚内。
貳拾石四斗七升、　長町村内。
拾貳石、　〔酢洗村内。
三石、　陣場村内。
百五拾四石八升、　中野村内。
以上。
此内。
一百四拾貳石九斗六升、　學頭領。
一貳拾壹石、　山王、御供領。
一拾壹石、　熊野領。
一百貳拾石、　六供分。
右此寺者、慈覺大師、天長三年菊月之比、御建立之靈地ニ而御座候、當住持徒ニ　南光坊大僧正ニ被仰付候、東叡山之龍藏坊ゟ申者ニ而御座候。
寛永拾四年、　寶光院。
五月日、　天英、判
寺社、
御奉行所。

柳田主水正。
名乘書判。　印判。
坂清左衛門尉。
同所。
日向兵左衛門尉。
同所。
保科民部少輔。
同所。

〔吉祥院文書〕

出羽國村山郡成生庄阿蘇郷、天台宗圓滿寺、前代ヨリ被付置候、別當千手院、慶長二丁酉年、紀州大峰相勤無補所、執行仕候、右之通從前々被下置申ニ付、御堂再興、佛供御燈明、掃除以下迄、無如意仕申候條、御朱印頂戴仕之樣ニ、御取成奉願存候、以上。
寛永十四丁丑四月　日、
別當、千手院。　年六十壹、
正藏。（花押）
御奉行所。

按（當寺諸社寺啓申ノ記錄數多アルベシ、今其二三ヲ採錄セルノミ。）

同年十月、幕府、五人組制度ヲ勵行シ、所在ノ惡徒ヲ追捕セシム、是ヨリ東北地方、五人組々

織極テ實効ヲ奏ス。

〔史料雜集〕

覺

一從此前被仰出候五人組、彌念入可相改事。

一在々所々ニ、惡黨無之樣ニ鄕切ニ申合、常々改之、若不屆成者於有之者、穿鑿之上五人組ハ不及申、依其品一鄕之者可爲曲事事。

一不審成者ニ不可借宿、自然不知借怪事有之ハ、縱親族緣者たりと云共、早々其所の庄屋五人組迄、有樣可申屆事。

一御料私領共ニ、或新田或鄕中へ、越來者有之時ハ、本の所を能々相改、慥成者ニて於無搆可指置事。

一鄕中ゟ奉公ニ出候者、又商買に行候共、先々落着所を庄屋五人組ニ爲知、罷出候樣ニ可申付事。

一在々所々ニ、盜賊之者惡黨於有之者、急度可申出、假令雖爲同類其科を許し、御褒美可被下、若隱置他方より訴人有之者、穿鑿之上其五人組ハ勿論、庄屋共ニ可爲曲事、或同類或親類緣者等仇を可成と存、不申出義も可有候者、右之通ニ候者、内々を以可出候、御褒美被下、其上仇を致候ハぬ樣ニ、急度可致仰付候事。

一在々所々、堂宮幷山林にからまり、不審成者於見出候者相搦、庄屋幷所之者相議之上、其處の地頭代官へ可渡之、捕候儀難候者、其村の庄屋所へ可申屆、御褒美可被下、然上ハ其庄屋早速人を集、精を入可搦捕、自然捕候儀難成候者、相慕之落着所へ斷之、搦捕候樣ニ可仕之、若見遁し聞捨令欠落者、假令後日に聞候共可爲曲事事。

一在々所々、惡黨有之時ハ、鳴を立へし、先々の村より出合可召捕也、御褒美可被下、於不出合者、鄕中穿鑿の上可爲曲事事。

一惡黨捕候刻、地頭代官其所ニ不有合候ハヽ、江戸江召連、奉行所へ可指上事、入用從公儀可被下事。

右在々所々盜賊之族有之候而、切々致惡逆事、給人之面々と、代官之輩、油斷被思召候、堅於改之、惡黨可穿鑿、若無沙汰に仕、此以渡惡人於有之者、其所々給人代官可爲無念、此外御法度之儀、彌念入可申付者也。

寛永十四年丁丑十月廿六日。

同十五年戊寅九月、保科正之、其所領ノ田畑ヲ檢地シ、宅地ノ租稅ヲ免除ス、明年ニ至リ結了ス、之ヲ寛永檢地ト云フ、其檢地帳往々各字ニ現存ス。

〔志戸田村屋敷名寄〕

羽州村山郡志戸田村屋敷名寄。

（寛永十六己卯年 延享二丑年寫之）

御免地、

一屋敷、五町貳反壹畝拾九歩。

内、三畝歩、　御藏屋敷。
殘五町壹反八畝拾九歩。
此譯。

一五畝拾貳歩、　長　吉。
一壹反壹畝廿貳歩、　兵右衛門。
一壹反八畝歩、　久　藏。
一壹反四歩、　藤　七。
一壹反八畝六歩、　次郎兵衛。
一壹反貳拾歩、　仁左衛門。
一六畝拾五歩、　角　内。
一七畝廿四歩、　與　吉。
一壹反八歩、　庄　三郎。
一五畝拾歩、　四郎右工門。
一五畝歩、　惣　吉。
一五畝拾三歩、　源右衛門。
一五畝拾三歩、　乾　德寺。
一拾貳歩、　同　人。
一壹反貳畝歩、　同　人。

一壹反壹畝廿貳歩、　又　次郎。
一壹畝廿八歩、　吉右衛門。
一壹反五畝廿六歩、　長　三郎。
一六畝拾五歩、　五郎兵衛。
一壹反貳畝歩、　又　四郎。
一八畝拾貳歩、　喜　兵衛。
一四畝廿五歩、　喜左衛門。
一九畝廿五歩、　同　人。
一貳畝六歩、　同　人。
一壹反貳拾歩、　同　人。
一六畝歩、　半　兵衛。
一三畝廿七歩、　同　人。
一貳反五畝廿七歩、　彌　吉。
一六畝九歩、　藤　四郎。
一七畝廿歩、　久　七。
一七畝六歩、　孫　四郎。
一壹反拾貳歩、　平　内。
一五畝拾歩、　彌　助。

一三畝歩、　甚三郎。
一貳畝歩、　同　人。
一壹反六畝廿四歩、　山形六之助分、作右衛門。
一七畝拾歩、　久四郎。
一六畝拾貳歩、　七右衛門。
一四畝歩、　勘兵衛。
一四畝歩、　同　人。
一八畝廿六歩、　又兵衛。
一六畝六歩、　惣左衛門。
一七畝十歩、　八　藏。
一七畝六歩、　寶僧坊。
一六畝拾貳歩、　長助分、才三郎。
一貳畝拾貳歩、　大郎左衛門分、市　助。
一五畝十歩、　久　作。
一五畝歩、　庄右衛門。
一四畝廿四歩、　長兵衛。
一六畝拾六歩、　山形六兵衛分、甚五郎。
一壹畝拾八歩、　山形六兵衛分、同　人。

一六畝拾八歩、　山形庄七分、甚右衛門。
一五畝拾貳歩、　山形勘四郎分、重兵衛。
一六畝歩、　敬念寺。
一五畝拾八歩、　山形勘四郎分、傳四郎。
一五畝拾八歩、　山形六之助分、三右衛門。
一五畝廿五歩、　長兵衛分、小兵衛。
一五畝歩、　山形勘四郎分、武兵衛。
一三畝四歩、　山野邊村彌七分、平兵衛。
一壹畝拾八歩、　山形勘四郎分、助作。
一壹畝拾六歩、　山形勘四郎分、同　人。
一四畝廿四歩、　孫兵衛。
一壹畝拾歩、　孫右衛門。
一九畝拾歩、　山形六之助分、權三郎。
一九畝拾歩、　孫右工門分、安左衛門。
一四畝廿七歩、　喜兵衛分、長左衛門。
一壹反五畝九歩、　長四郎。
一九畝廿五歩、　太左衛門分、太右衛門。
一三畝拾歩、　嘉兵衛。

一貳畝拾貳歩、　　安兵衛。
一五畝拾八歩、　　長三郎分、半内。
一四畝歩、　　源七。
一八畝歩、　　清三郎。
屋敷、合五町七反八畝拾九歩。

〔志戸田文書〕

寛永拾六卯年保科肥後守様定納一紙。
御私領入會ふし、
出羽國村山郡志戸田村土帳壹冊。
一高貳千貳百五拾八石五斗壹升五合、　高辻。
内。
堀田伊豆守様御代享保拾七年ニ
九拾石五斗七升五合三夕、新田畑本田入。
内。
壹町壹反貳畝拾壹歩半、前々川欠引。
四畝拾八歩、　砂置引。
此反別、百四拾貳町九反廿貳歩、高百石ニ平均、六町三反貳畝廿貳歩程、
内。

九拾七町五反壹畝貳拾歩、田方。
内。
壹町五反貳畝七歩、田畑成。
四拾五町三反九畝貳歩、畑方。
内。
五反六畝八歩、畑田成出目。
此譯。
上田、貳拾町壹畝拾歩。
此取米、百六拾七石壹斗八升八合。
内。
四石五斗五升六合九勺、砂置川欠田畑成免下り引、
四反八畝拾五歩、　壹石五升代。
取米五石九升貳合五夕、
貳拾歩、　壹石代。
取米六升六合七勺、
拾六町七反七畝廿三歩、八斗三升代。
取米、百參拾九石貳斗五升四合六勺、
六反壹畝貳拾六歩、　七斗壹升代。

取米、四石三斗九升貳合五勺、
四反壹畝貳拾歩、　七斗代。
取米、壹石五斗貳升七合貳勺、
壹反三畝九歩、　六斗八升代。
取米、九斗四合四勺、
壹町貳畝拾八歩、　六斗五升代。
取米、六石六斗六升九合、
貳反貳畝貳拾歩、　六斗四升代。
取米、壹石四斗五升六勺、
八畝拾五歩、田畑成、　四斗貳升代。
取米、三斗五升七合、
壹畝歩、　前々砂置引。
引米、八升三合、
貳拾歩、　前々川欠引。
引米五升三合、
中田、貳拾六町九反三畝拾九歩。
此取米、貳百貳拾四石八斗貳升六勺。
内。

六石四斗九升五勺、川欠田畑成免下り引
六畝拾六歩、　九斗五升代。
取米、六斗貳升壹合、
壹町六反七畝六歩、　九斗代。
取米、拾五石四升八合、
貳拾貳町五反三畝廿六歩、八斗三升代。
取米、百八拾七石七升九勺、
三反壹畝貳拾歩、　七斗代。
取米、貳石貳斗壹升六合六勺、
四反六畝貳拾三歩、　六斗八升代。
取米、三石壹斗八升壹勺、
貳反六畝九歩、　六斗七升代。
取米、壹石七斗六升貳合壹勺、
四反壹畝貳歩、　六斗六升代。
取米、貳石七斗壹升四勺、
壹反六畝七歩、　五斗八升代。
取米、九斗四升壹合五勺、
五反貳畝歩、　五斗貳升代。

取米、貳石七斗四合、
壹反五畝六歩、　四斗貳升代、
取米、六斗三升八合四勺、
三反四畝四歩、田畑成、四斗貳升代、
取米、壹石四斗三升三合六勺、
貳畝廿歩、　前々川欠引、
引米、貳斗五升五合、
下田、四拾町四反七畝拾九歩、
此取米、貳百九拾七石五斗壹升九合九勺、
内、
七石貳斗八升六合四勺、砂置田畑成免下り引、
貳反歩、　壹石七升代、
取米、貳石壹斗四升、
拾五歩、　八斗五升代、
取米、四升貳合五勺、
三町三反拾四歩、　七斗五升代、
取米、貳拾四石七斗八升五合、
三拾四町六歩、　七斗三升代、

取米、貳百四拾八石貳斗壹升四合六勺、
壹反五畝歩、　七斗貳升代、
取米、壹石八升、
三反四畝廿四歩、　六斗壹升代、
取米、貳石壹斗貳升貳合八勺、
壹反六畝歩、　六斗代、
取米、九斗六升、
五反貳拾八歩、　五斗五升代、
取米、貳石八斗壹合三勺、
貳反五畝九歩、　五斗三升代、
取米、壹石三斗四升九勺、
三反五畝拾貳歩、　五斗貳升代、
取米、壹石八斗四升八勺、
貳反貳畝貳歩、　四斗九升代、
取米、壹石八升壹合三勺、
壹反五畝歩、　四斗七升代、
取米、七斗五合、
壹反三畝拾歩、　四斗壹升代、

取米、五斗四升六合六勺、

壹反四畝歩、　四斗代。

取米、五斗六升、

三畝拾歩、田畑成、　四斗貳升代。

取米、壹斗四升、

四反七畝拾五歩、田畑成、三斗七升代。

取米、壹石七斗五升七合五勺、

三畝拾八歩、　前々砂置引。

引米、貳斗六升貳合八勺、

六歩、　前々川欠引。

引米、壹升四合六勺、

下々田、拾町九畝貳歩、

此取米、五拾八石八斗三升壹合六勺。

内。

貳石九升貳合五勺、　川欠田畑成引。

壹町五反三畝歩、　六斗代。

取米、九石壹斗八升、

七町八反四畝廿五歩、　五斗八升代。

取米、四拾五石五斗貳升三勺、

壹反貳拾歩、田畑成、　四斗貳升代。

取米、四斗四升八合、

四反九畝拾壹歩、田畑成、三斗貳升代。

取米、壹石五斗七升九合七勺、

壹反壹畝六歩、　前々川欠引。

引米、六斗四升九合六勺、

内。

壹畝八歩、下々田成起返り、五斗八升代。

取米、七升三合五勺、

田合九拾七町五反壹畝貳拾歩、

取米、合七百四拾八石三斗六升壹勺、

内、五石壹升五合五勺、田畑成引。

九斗七升貳合貳勺、川欠引。

三斗四升五合八勺、砂置引。

拾四石九升貳合八勺、免下り引。

小以、貳拾石四斗貳升六合三勺。

殘、七百貳拾七石九斗三升三合八勺。

七升三合五勺、起返り出目。
上畑、八町壹反貳拾四歩、四斗貳升代。
此取米、三拾四石五升四合、
内。
貳反九畝廿三歩半、前々川欠引。
引米、壹石貳斗五升九勺。
中畑、拾三町四反九畝廿三歩、
此取米、四拾九石八斗九升六合貳勺、
内。
八畝九歩、前々川欠引。
引米、三斗七合壹勺、
貳反貳畝拾八歩、三斗五升代。
取米、七斗九升壹合、
拾三町壹反八畝廿六歩、三斗七升代。
取米、四拾八石七斗九升八合、
内。
貳拾壹歩、上田成、八斗三升代。
此出目米、三升貳合貳勺、

壹畝三歩、下々田成、五斗八升代。
此出目米貳升三合壹勺、
下畑、拾三町七畝拾五歩、
此取米、四拾壹石六斗八升八合六勺、
内。
四反九畝貳歩、前々川欠引。
引米、壹石五斗七升壹勺、
七反五畝廿壹歩、三斗代。
取米、貳石貳斗七升壹合、
拾壹町八反貳畝廿貳歩、三斗貳升代。
取米、三拾七石八斗四升七合五勺、
内。
貳反四畝五歩、下田成、七斗三升代。
此出目米、九斗九升八勺、
貳反六畝壹歩、下々田成、五斗八升代。
此出目米、六斗七升六合九勺、
下々畑、五町四反九畝拾壹歩、
此取米、拾三石七斗壹升五合四勺、

内。

壹反拾五歩、　　前々川欠引。

引米、貳斗六升貳合五勺、

九畝九歩、　　貳斗三升代。

取米、貳斗壹升三合九勺、

五町貳反九畝拾七歩、　貳斗五升代。

取米、拾三石貳斗三升九合壹勺、

内。

貳畝拾貳歩、下田成、七斗三升代。

此出目米、壹斗壹升五合貳勺、

壹畝貳拾六歩、下々田成、五斗八升代。

此出目米、六升壹合六勺、

畑、合四拾町壹反七畝拾三歩、

五町貳反壹畝拾九歩、屋敷御用赦。

〃。

取米、合百三拾九石三斗五升四合貳勺、

内。

三石四斗五升三合六勺、諸引方。

殘、百三拾五石九斗六勺、

壹石七斗八升四合六勺、畑田成出目〃。

田畑、合百四拾貳町九反貳拾貳歩、

此取米、八百六拾五石六斗九升貳合五勺。

外ニ見取場、

上田、壹畝歩、　　八斗三升代。

此取米、八升三合、

下田、三畝拾七歩、　七斗三升代。

此取米、貳斗六升壹勺六才、

下々田、五畝五歩、　五斗八斗代。

此取米、貳斗九升九合六勺七才、

田、合九畝貳拾貳歩、　無高新田。

取米、合六斗四升三合三才、

下畑、壹畝貳拾壹歩、　三斗貳升代。

此取米、五升四合四勺、

下々畑、貳拾七歩、　貳斗五升代。

此取米、貳升貳合五勺、

畑、合貳畝拾八歩、　無高新畑。

取米合七升六合九勺、
田畑、合壹反貳畝拾歩、
此取米、七斗壹升九合七勺三才、

〔江俣文書〕

定納一紙、

一高千五百六拾五石貳斗七升、　江俣村、

内、

九斗八升、
上田、七町八反貳畝四歩、
取、七拾六石六斗四升九合、
八斗八升、
中田、拾五町八反九畝貳歩、
取、百三拾九石八斗三升八合、
七斗八升、
下田、拾八町七反拾貳歩、
取、百四拾五石八斗九升壹合、
六斗三升、
下々田、六町四反壹畝拾壹歩、

取、四拾石四斗六合、
小、四拾八町八反貳畝貳拾九歩、
取、四百貳石七斗八升四合、
五斗、
上畠、貳町壹反貳畝貳拾四歩、
取、拾石六斗四升、
四斗五升、
中畠、九反四畝貳拾三歩、
取、四石貳斗六升四合、
四斗、
下畠、貳町四反八畝拾五歩、
取、九石九斗四升、
三斗三升、
下々畑、貳町拾九歩、
取、六石六斗貳升壹合、
小、七町五反六畝貳拾壹歩、
取、三拾壹石四斗六升壹合、
外他郷ゟ入分、

九斗、
中田、七反八畝拾歩、　中野村ゟ入、
取、七石五升、
七斗七升、
下田、三反五畝貳拾六歩、　同村より入、
取、貳石七斗六升貳合、
五斗七升、
下々田、七反壹畝拾三歩、　同村より入、
取、四石七升貳合、
四斗、
上畠、壹反壹畝拾歩、　同村ゟ入、
取、四斗五升三合、
三斗五升、
中畠、五反四畝九歩、　同村ゟ入、
取、壹石九斗、
三斗、
下畠、壹町九反貳畝七歩、　同村より入、
取、五石七斗六升七合、

貳斗三升、
下々畠、五反壹畝歩、　同村ゟ入、
取、壹石壹斗七升三合、
九斗、
上田、壹町五反六畝五歩、　陣塲村ゟ入、
取、拾四石五升五合、
八斗、
中田、壹町七反六畝貳拾八歩、　同村ゟ入、
取、拾四石壹斗五升五合、
七斗、
下田、三町壹反貳拾三歩、　同村ゟ入、
取、貳拾壹石七斗六升四合、
五斗五升、
下々田、壹反九畝拾七歩、　同村ゟ入、
取、壹石七升六合、
四斗、
上畠、壹反七畝拾歩、　同村ゟ入、
取、六斗九升三合、

三斗五升、
中畠、四畝貳拾八歩、　同村ゟ入。
取、壹斗七升三合、
三斗、
下畠、四反七畝四歩、外貳畝廿三歩、四日町へ入、　同村ゟ入。
取、壹石四斗壹升四合、
二斗三升、
下々畠、二反六畝八歩、外壹せ拾九歩、同斷、　同村ゟ入。
取、六斗四合、
壹石五升、
中田、六畝貳拾八歩、　宮町ゟ入。
取、七斗貳升八合、
九斗五升、
下田、三反七畝貳拾八歩、　同町ゟ入。
取、三石六斗壹合、
四斗、
下畠、壹反貳拾壹歩、　同町ゟ入。
取、四斗貳升八合、

九斗、
中田、貳反貳畝仁拾三歩、　鮎洗村ゟ入。
取、貳石四升九合、
九斗五升、
中田、三反八畝歩、　舟町村ゟ入。
取、三石六斗壹升、
三石五升、
下畠、貳拾歩、　同町ゟ入。
取、貳升三合、
貳斗八升、
下々畠、壹畝六歩、　同村ゟ入。
取、三升四合、
八斗貳升、
下々田、壹反六畝拾四歩、　六日町ゟ入。
取、壹石三斗五升、
壹石壹斗貳升、
中田、貳畝仁拾八歩、　下條村ゟ入。
取、三斗貳升八合、

壹石貳升、
下田、三反壹畝六歩、　同村ゟ入。
取、三石壹斗八升貳合、
八斗貳升、
下々田、四反五畝拾五歩、　同村ゟ入。
取、三石七斗三升壹合、
壹石壹斗七升、
中田、六反四畝四歩、　同村ゟ入。
取、七石五斗三合、
壹石七升、
下田、六反貳拾九歩、　同村ゟ入。
取、六石五斗貳升三合、
六斗、
上畠、壹反三畝貳拾六歩、　同村ゟ入。
取、八斗三升貳合、
五斗、
下畠、貳反六畝拾四歩、　同村ゟ入。
取、壹石三斗四升、

六斗、
下田、八畝拾五歩、　今塚村ゟ入。
取、五斗壹升、
壹石、
上田、六反三畝拾歩、　内表村ゟ入。
取、六石三斗三升三合、
九斗、
中田、四町七反貳拾歩、　同村ゟ入。
取、四拾貳石三斗五升九合、
八斗、
下田、壹町五反六畝貳拾八歩、　同村ゟ入。
取、拾貳石五斗五升五合、
六斗五升、
下々田、七反壹畝歩、　同村ゟ入。
取、四石六斗壹升六合、
四斗五升、
上畠、壹反壹畝拾貳歩、　同村ゟ入。
取、五斗壹升三合、

四斗、

中畠、壹反壹畝貳拾四歩、　同村ゟ入。

取、四斗七升貳合、

三斗五升、

下畠、壹反九畝貳拾貳歩、　同村ゟ入。

取、六斗九升壹合、

貳斗八升、

下々畠、三畝貳拾仁歩、　同村ゟ入。

取、壹斗四合、

壹石貳斗七升、

上田、壹畝貳拾壹歩、　小橋町ゟ入。

取、貳斗壹升六合、

壹石壹斗貳升、

中田、拾貳歩、　同村ゟ入。

取、四升五合、

壹石貳升、

下田、壹畝六歩、　同村ゟ入。

取、壹斗貳升三合、

小、貳拾四町五反四畝貳歩、

取、百八拾石九斗貳合、

都合、八拾町九反三畝貳拾壹歩、

取、六百拾五石壹斗五升壹合、

右之通相定上、毎年霜月晦日以前ニ、急度皆済可仕者也、

寛永十六年　卯三月十日、　柳坂清右衛門　主水㊞　清右衛門□　兵左衛門○

日江俣村名主方、

〔史料雑集〕

同寅卯兩年ニ領地へ御縄入、三ッ九分三厘之御取筒ニ成る云々、

〔山家村文書〕

紙數四拾五枚、七帖之内、壹番、

但上紙共、　案内、刑部、

彦左衛門、

四郎兵衛、

十郎右衛門、

出羽國山形領天童山家村御縄打水帳、

寛永十五年寅ノ九月廿一日、

山嶋理兵衛印
山路三五左衛門印
遠藤長三郎印

同十七年庚辰四月、是ヨリ前、村山郡延澤銀鑛繁盛ヲ極ム、四方農民田畑ヲ抛棄シ、往々走リテ鑛夫ニ從事ス、米澤城主上杉定勝屢々禁令ヲ出シ、之ヲ止ムレドモ止マズ、因テ更ニ代官ニ命シテ、他出者ヲ嚴シク監察セシム。

〔採訪史料〕

延澤銀山へ參者之御法度諸代官へ書渡。

御領中より他國之金山へ參候儀、毎年御法度ニ候、就中改而堅停止候間、在々急度可被申付候、背御法度參候者在之者、一類之儀ハ不及申、其村之肝煎五人組十人組之者迄可爲成敗、もしかくれ忍候て參ものあらば、誰よても訴人に罷出へし、付在々にて前々より境目之通判出し付候者も、以來ハ能々吟味候て、諸商に參候者むさと手判出もゆるしく候、商にまぎらかし金堀に罷出候間、左樣之所能々穿鑿簡要之者也。

寛永十七年卯月日、

按本郡諸村ノ農民、延澤銀山ニ移住セルモノ多キヲ以テ、然レドモ、記錄ノ缺ヲ憾ムベキナリ。

同十八年辛己、今茲飢饉人民餓死多シ。

同十九年壬午六月、幕府救荒ノ令ヲ頒ツ。

〔幕府令狀〕

覺。

一當年者諸國人民くたひれ候間、百姓少々可令用捨、此上若當作毛於損亡者、來年可爲飢饉、儉約之義彙而雖被仰出、諸侍も彌存其旨、萬事相慎可減少之、町人百姓己下者、食物迄も其覺悟いたし、不及飢候樣ニ相計之、勿論、百姓等者常々猥八木不給やうに可申付事。

一百姓年貢等之義、損亡無之處申掠、未進すへからさる事。

一當年者相定役義之外、百姓つかひ申間敷事。

一五穀の類費ニ不成樣ニ可申付事。

一來年よりハ本田畠にたねこ作るへからさる事。

右條々、被仰出候間、被得其意、家中之者、并領内寺社之輩、町人百姓等迄、堅可被申付者也。

寛永十九年六月廿九日、

宮城越前守。
朝倉石見守。
幽也
神尾備前守。
秋元但馬守。
松平右衛門大夫。

覺。

一去年當年作毛あしき所も有之而、民間くたひれ候と相聞候、此上つかれさるやうに念を入、仕
置可被申付候事。
一當夏中如被仰出、則百姓非義不可者之、若又立毛損毛無之所申掠、年貢等令難澁、土民あらハ、急
度可被行曲事事。
一酒之儀於諸國累年作來候より、當年ハ減少して作候之樣ニ可被申付之事。
一雜穀之費たる間、諸國在々所々ニ至迄、當年ハ饂飩、きり麥、素麵、饅頭、南蠻菓子、そはきり等商賣
無用之事、付名物之素麵ハ、累年程可作事。
一所々作候　雜穀其外食物ニ成候類、年貢の方ニ土民代りへ出し候ハ各別、當座自由のためニ
末のりんりへも無之、つかひちらし費ある事おほく可有之候、御代官所給人、めい〳〵ニ可被
申聞之事。
右之通各相談之上、御代官所給人方相觸候間、可被得其意候、以上。

寛永十九年閏九月十四日　曾根源左衛門
朝倉　岩見守。
神尾　備前守。
宮城　越前守。
井上　筑後守。
秋元　但馬守。
松平右衛門大夫。

同年某月、代官小林重郎左衛門罷出、松平清左衛門代官職ニ任ス。

〔西村山郡史〕

寛永十九年午迄、始終七年、重郎左衛門樣御代官被成候之處、御子息彦五郎樣、江戸ニ而御誤之
義御座候ニ付、則午年御代官被召上候云々。
一松平清左衛門樣、三州長澤領被成御支配、三遠筋御代官頭被成候之處、寛永十九午年、最上へ御
下り被成、小林十郎左衛門樣御跡被成御支配。

同二十年癸未三月、連年凶饉ノ後、鄕村困乏セルヲ以テ、衣食住ノ制ヲ頒布ス。

〔江俣文書〕

在々御仕置之儀ニ付御書付。
一庄屋惣百姓共、自今以後、不應其身家作不可仕、但シ、町家之儀ハ、地頭代官之差圖を請可然事。
一百姓衣類此以前ハ如御法度、庄屋其妻子共絹紬布木綿繕、百姓ハ布木綿斗可着之、此外樣おい
ニも致申間敷事。
一庄屋惣百姓共ニ、衣類紫紅花ニ染間敷候、此外ハ何色成共形おし染可差事。
一百姓之食物常雜穀を用ひ、米ハ猥ニ不食樣ニ可申聞事、
一市町ニ出、むさゝ酒呑ゝからさはる事、
一耕作田畑共ニ手入能いたし、草をも無油斷取、念ヲ入可申候、若不念ニ不届成百姓有之ハ、穿鑿
之上曲事ニ可申付事。

一壹人身之百姓煩ニ無紛耕作成兼候時分、五人組ハ不及申、其一村として助合、田畑仕付令收納候樣ニ可仕事。

一名主惣百姓男女共、乘物停止之事。

一他所ゟ相越田畑をも不仕、慥ニも無之者ハ、郷中ニ置申間敷候、若隱置候ハヽ科之輕重を糺し、抱候をの曲事可申付事。

一田畑永代之賣買仕間敷事。

一百姓年貢方、爲訴訟所を明欠落仕候ハヽ、宿ヲ致間敷候、若於相背ハ、穿鑿之上曲事ニ可行事。

一佛事祭禮等ニ至迄、其身ニ不似合結構ヲ仕間敷事。

一江戸惣構之内江、木草并俵物杯馬ニ付、中ニ乘申間敷候事。

右之條々在々所々堅相觸、向後急度此旨相守可申旨、常々入念ヲ可相改者也。

寛永廿未年三月、

同年七月、山形城主肥後守保科正之會津ニ移封、三萬石加賜、二十三萬石ヲ食ム、山形領ヲ幕府ニ直轄シ、代官松平清左衛門ヲシテ、之ヲ司配セシメ、戸澤右京亮、六郷伊賀守、岩城但馬守ニ命シ、山形城ニ在番セシム。

〔土津言行錄〕

寛永二十年癸未七月四日、出羽の國最上の御城より、會津江御國替被仰付、三萬石の御加增ニて貳拾三萬石の御高となるあり、同八月二日江戸御發駕、同八日會津江御入部被遊候。

〔史料雜集〕

同年奥州會津若松へ所替、夫より正保元甲申四月迄、山形御公料。

一九預、　戸澤右京亮。

二九預、　六郷伊賀守。

三九預、　岩城但馬守。

御代官、　松平清左衛門。

此節男女他國出判、伊賀守、但馬守、兩家より出す。

後光明天皇同年十一月、是ヨリ前、鳥居氏ノ地ヲ撿スルヤ、多ク寺社領ヲ侵剝シ、以テ有稅地トナス、保科氏ヲ經テ改ラズ、是ニ到リ龍門立石諸寺上書シテ、舊制ニ還復セラレンコトヲ幕府ニ請願ス。

〔龍門寺文書〕

龍門寺々領。

一高貳百石、出羽守右京太夫爲菩提被下候、內百八石屋敷ニ割ゟ、源五郎殿御代迄、藏方ニ而請取申候、戌之年御國替ニ而、御上使伊丹播磨樣、井上新左衛門樣御下之時、御理申上、高貳百石也、御前帳ニ御繕ひ被成候處、左京殿御代ゟ、藏方ニ而茂地方ニ而も不被下候、此度御慈悲ニ申請度候。

右之內たおゟ地之覺。

一六石八斗、　極樂寺屋敷。
一拾五石、　日野備中下屋敷。
　　川原町いたゝ町。
一拾九石、　寒河江町。
一拾六石四斗、　法擂寺屋敷。
　　うら通り。
一五石貳斗、　同うら通り。
一廿六石六斗、　專勝寺。
　　うら通り。
一三石、　まげし町出右衛門。
　　屋敷通り。
一四石、　御免町七右衛門。
　　屋敷通り。
一拾貳石、　御免町通り。
〃百八石、　龍門寺。
寛永貳拾年霜月十八日、
　御上使樣。

〔立石寺文書〕

謹言上、

出羽之國於最上村山之郡成生庄寶珠山立石寺阿所川院、清和天皇之御願所、慈覺大師之御建立、貞觀二年庚辰、山根本如法堂本尊ト者、三十番神、山上之清僧爲輪番、法華三昧行法、三火一燈之根本、晝夜之行供、一龍之讀經、一卷之經書畢、是天下之御長久之御祈念、然間麓山王廿一社、此日吉御祭、四月中ノ申之日、則山形殿御役ニ而、米五拾俵并代拾貫文宛被下、天下御長久御祈願也。

一東ニ根本中堂、則從顯日七日中、初夜道師後夜道師ノ法事有り、鬼笑名付、天下之御壽命祈法也、西ニ阿彌陀如來、常行三昧之法事、武運長久、國土安全奉祈者也、此趣旨餘山ニ爲勝、

一大師講山林之事、

一丑寅ニ嶺津山林之事、

一辰巳ニ立石山林之事、

一未申ニ小高次并近內山芦澤山林之事、

一戌亥ニ大石澤山林之事、

是皆以霜月廿四日ニ、天台大師講ヲ相勤申候山也、然ニ立石寺者殺生禁斷之山也、然所近年御國替後、鳥居左京殿御祭茂被相止、殺生茂破、銘木ヲ切、種々山ヲ荒シ、是迷惑存候、一山之出家共罷出、色々御詫申候得共、御合點無之候、今也出家共ニ横役被仰付候間致迷惑事、

一此書付之通、山王日吉御祭、大師講之山林并殺生禁斷、或ハ出家共ニ横役地付之山林、皆以此度幸御藏入ニ罷成候條、右之通り御訴訟申上候、偏ニ奉願候、以上。

11
5
306

東村山郡史 卷之一終

寛永廿年未ノ極月九日、　立石寺一山衆中。
御奉行所。

終